SEIKO WATCH CORPORATION
www.grand-seiko.com

BSJ9SCCE-1805
Printed in Japan

GS
Grand Seiko

Mechanical

Operating Instructions

日本語

この度はグランドセイコーをお買い上げいただき、
誠にありがとうございました。
ご使用の前にこの説明書をよくお読みの上、
正しくご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、この説明書はお手元に保管し、必要に応じてご覧ください。

金属バンドの調整は、お買い上げ店にご依頼ください。
ご贈答、ご転居などにより、お買い上げ店での調整が受けられない場合は、弊社お客様相談窓口へご依頼ください。お買い上げ店以外では有料もしくはお取扱いいただけない場合があります。

商品に傷防止用の保護シールが貼られている場合があります。
必ずはがしてお使いください。貼られたままにしておくと、汚れ、汗、ごみ、水分などが付着してさび発生の原因となります。

目　次

■はじめに ～機械式時計について～ …… 2
・機械式時計の特徴とは …… 3
・機械式時計と長く付き合うために …… 5
■精度に関するご注意 …… 8
■製品取扱上のご注意 …… 8
■キャリバー番号および防水性能ご確認のお願い …… 10
■防水性能に関するご注意 …… 11
■各部の名称 …… 15
■ご使用方法 …… 17
・9S85、9S68、9S65、9S25の場合 …… 18
・9S86、9S66の場合 …… 20
※世界の主な地域の時差一覧 …… 26
・9S64の場合 …… 27
・9S61の場合 …… 29
■ダイバーズモデルの機能 …… 30
■グランドセイコー規格について …… 32
・グランドセイコー規格検定合格証明書について …… 34
・機械式時計の精度についてご注意事項 …… 34
■ご注意いただきたいこと …… 36
・アフターサービスについて …… 36
・保証について …… 37
・お手入れについて …… 38
・バンドについて …… 39
・耐磁性能について（磁気の影響） …… 40
・ルミブライトについて …… 41
・こんな時には …… 41
■製品仕様（ムーブメント関係） …… 42

■はじめに ～機械式時計について～

この度はグランドセイコーメカニカルウオッチ（機械式時計）をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

まずは、そっと手にとり、その鼓動に耳を傾けてください。
コチコチコチという、微かでやさしく、
けれども厳かな響きが聞こえてくると思います。
それは、長年にわたり受け継がれてきた
職人たちの技と魂の結晶ということができるでしょう。
厳選された数多くの部品を、熟練の技で一つひとつ、丹念に組み上げ、
生命を吹き込まれた証の音なのです。

さて、機械式時計は、正確さにおいて、
確かにクオーツ時計にはかないません。
しかし、人の手による精度の追求、
そこには職人たちの心と叡智がギッシリとつまっています。

複雑で繊細で、しかも人間味あふれる機械式時計。
私たちは、その限りない魅力を多くの方々に知っていただきたく、
精度に関わるポイントを中心に、まとめました。
グランドセイコーと共に、末永く
素敵な時間を過ごしていただけることを願いながら。

セイコーウオッチ株式会社

クオーツと機械式。どう違う？

身近な例でお話しましょう。

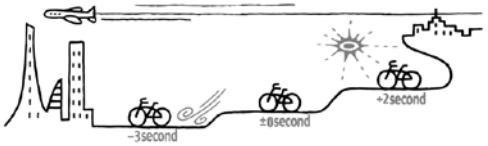
日頃慣れ親しんでいるクオーツ時計。
これは、いわば、コンピュータで制御された飛行機のようなもの。
電池とICと水晶によって、電気的にとても正確な時間をつくりだします。

使用している間には多少の誤差も生じますが、それは私たちの一日一日の生活の中では分かりにくい程小さなものです。

クオーツが飛行機だとすると、
機械式は自転車に似ているでしょうか。
すべての部品が機械的に働きあい、
時間を刻み出しています。
したがって、周囲の環境にも大きく影響されるのです。

暑ければ一般に遅れがちになり、
パワー不足（ぜんまいの巻き上げ量が少ない）のときは精度が不安定になります。
時計の姿勢（向き）が変わると、精度も変わります。

その誤差は、
私たちの一日一日の生活の中でもわかる位に大きくなることもあるのです。



メカの精度は日差。

一日あたりの時計の進み・遅れの実測値。
それを、日差と言います。

機械式の精度は、この日差で表示されるのが普通です。

機械式の精度は、ご使用条件や外部環境の違いなどで、毎日微妙に変化します。

そのため、ある一日だけの進み／遅れを見ただけでは、
その時計の精度の実力を判断できません。

一週間から10日程度にわたって進み／遅れを見、
その平均値から判断するのが正しいのです。

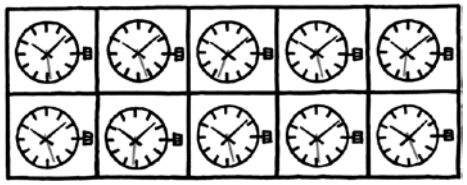
ちなみに、クオーツの精度は、月差や年差が一般的。
一ヶ月あるいは一年間でのトータルの誤差をクオーツの精度と呼んでいます。

静的精度と携帯精度

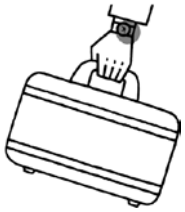
機械式時計の精度は、
腕の動きによるぜんまいの巻き上げ量、
温度、姿勢（時計の向き）などによって変化します。

そこで、その機械式時計の実力を環境に左右されず、公平に示すために、
ケースに組み込む前のムーブメント単体の状態で、
一定条件に管理された環境の中
何日もかけて進みや遅れを測定します。
その実測値を「静的精度」と呼んでいます。

国際規格ISO3159もグランドセイコー規格検定*も、
その規格値は、静的精度なのです。
*グランドセイコー規格検定について詳しくはP.32をお読みください。



この数値、
機械式時計の実力を、環境の変化に影響されずに
公平に評価・表示するために、人工的に管理された
環境で計測したデータなので、実際にお使いいただいた時の精度「携帯精度」とは異なります。



環境の違いによって、
毎日微妙に変化する、機械式時計の精度。
それは、まるで生き物にも似て、
ひとつの面白さになっているんですね。

グランドセイコーの携帯精度は、一日あたり−1〜＋10秒（9S86、9S85の場合は−1 〜＋8秒、9S25の場合は−5 〜＋10秒）の範囲を目安としております。この目安を超える場合には、調整させていただきます。（ご購入後3年以内は無償）精度調整をなるべく正しく行うには、お客様のご使用状況、そのときの具体的な進み／遅れが重要な情報になります。したがいまして、ご依頼の際には同時に次の内容についてもお知らせくださいますようお願いします。
（1）ご使用一週間〜 10日間での一日あたり平均の進み・遅れ
　例：「平均＋11秒」など
（2）上記使用期間中の、一日のおおよその着用時間
　例：「約10時間」など
（3）腕から外して置いておく時の時計の向き
　例：「文字板を上にして平らに」「りゅうずを上にして立てて」など

機械式時計と長く付き合うために　ルールその1

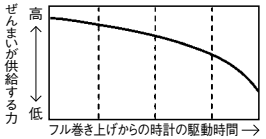
日本語

決まった時間にぜんまいを巻く。

物ごとすべてにルールがあるように、
ぜんまいの巻き方にもルールがあります。

初耳ですか？
でも、覚えてくださいね。

機械式時計のエネルギーであるぜんまい。
充分に巻かれた状態が、最も安定した
エネルギーを各部品に供給でき、
時計の精度も最も安定するのです。



自動巻きでも、精度が安定していない
な、と感じるときは、時計を振るか、りゅ
うずを回して、ぜんまいを巻き足して
ください。
デスクワークなどが多く運動が少ない
時は、ぜんまいが充分に巻き上がらな
いものです。

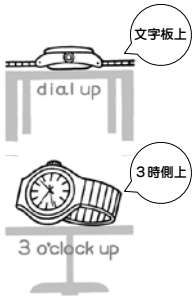
手巻きの場合は、
毎日同じ時刻にりゅうずを回して、
ぜんまいを充分に巻き上げて
ください。

より良い精度を保つためには、
一日一回、決まった時間に
ぜんまいを巻き上げる。
できるだけ、守ってくださいね。

たとえば、
起床時やお昼休みなどをぜんまいを
巻く時間と決めておくのも良いでしょう。

機械式時計と長く付き合うために　ルールその2

時計の置き方は、このように。



一日24時間の生活の中、ほぼ半分は時計を腕から外しておくでしょう。その間の精度も含めたものが「携帯精度」です。

腕から外した機械式時計。
さぁ、どのような姿勢で置いておけばよいのでしょうか。

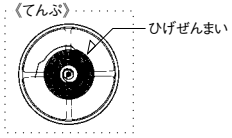
機械式時計は、姿勢（向き）の違いによって、進み／遅れが変わります。
進み気味になる向きもあれば、そうならない向きもあります。

夜、寝ている間など腕から外しておくときは、文字板を上にしたり、りゅうずを上にしたり、様々な向きで7 〜 8時間置いてみて、あなたが腕に着用しているときの進み／遅れを少なくできるような置き方を見つけてください。

機械式時計と長く付き合うために　ルールその3

暑さ寒さで精度も変わる。

髪の毛なみに細い
約0.1ミリの金属を巻いたもの。
それが、機械式時計の精度の要
ひげぜんまいです。

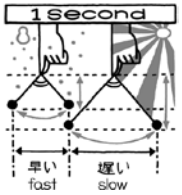


温度変化によって伸び縮みする
金属本来が持つ特性は、

ひげぜんまいにもあてはまり、
時計の精度に影響を与えます。

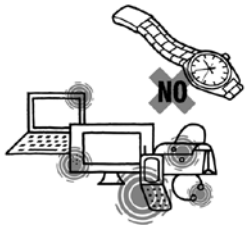
つまり、暑さの中では、
ひげぜんまいが伸び、
遅れがちになり

寒さの中では、ひげぜんまいが
縮み、進みがちになるのが
一般的です。



機械式時計と長く付き合うために　ルールその4

磁気の強い場所に近づけない。



時計を外しておくとき、携帯電話の隣や、
パソコンやテレビの上に置いていませんか。
バッグの中に、携帯電話と一緒に入れていませんか。

時計は磁気が嫌いです。
磁力の影響で、進んだり遅れたりすることがあります。

機械式時計をより良い精度でお使いいただくには、磁力に長時間近づけないことが大切です。

特に携帯電話やテレビ、パソコンのスピーカー部は、強い磁力を発しています。
ほかにも、磁気ネックレスやハンドバッグの口金、冷蔵庫のマグネット部分など、私たちの日常には、強い磁力を発するものがたくさんあります。

ご注意ください。

機械式時計と長く付き合うために　ルールその5

強い衝撃は避ける。

ゴルフでも
テニスでも
野球でも

腕に強いインパクトがかかる
スポーツをする時は、
機械式時計を外してください。

理由があります。

例えば、ゴルフのインパクトの瞬間、
クラブがボールに当たる衝撃は約1トン。

その衝撃が手首に伝わり、機械式時計内部の微細な部品に影響を与えるのです。

時として、部品を変形させ
壊れることもあります。

ナイスショットは、時計にとって、
バッドショックになるんですね。

機械式時計と長く付き合うために　ルールその6

3 年ごとにオーバーホール。

愛は3年ごとに。
オーバーホールのお話です。

電池交換のいらない機械式時計でも、
メンテナンスは欠かせません。

3年程度に一回は、
分解点検・掃除に出してあげてください。

着け始めれば一度も休むことのない
時計です。

しかも機械式時計は、クオーツ時計に
比べて歯車に伝達される力が強いため、
部品が摩耗していたり、潤滑油が乾き、
不足してる箇所があるかもしれませんね。

特に、使い始めの3年間は

それぞれの部品が馴染む期間で、部品
同士が当たることで出る磨耗紛なども
多いのです。

最初のオーバーホールが
その後の機械式時計の一生を決めます。

3年ごとのオーバーホール
どうぞ、忘れずに。

それは、時計への愛
といえるかもしれません。

■精度に関するご注意

○ 機械式時計の携帯使用時の精度は、お客さまそれぞれのご使用条件（一日の腕の運動量によるぜんまいの巻上げ具合、温度環境、姿勢[時計の向き]など）によって変化するものです。従いまして、お客さまが実際に携帯使用される場合の精度はグランドセイコー規格に定められた各項目の数値とは異なることがあります。

○ お客さまが携帯使用される場合の精度は、一日あたり－１～＋10秒（9S86、9S85の場合は－1～＋8秒、9S25の場合は－5～＋10秒）の範囲を目安としております。
携帯使用時の精度を正しく判断するには、一日のみではなく、通常のご使用状態で一週間から10日間程度お使いになって進み／遅れをみてください。その一日あたりの平均値が上記目安の範囲を超える場合は、調整させていただきます。（ご購入後３年以内は無料、それ以降は有料。詳しくはP.32およびP.37をご覧ください。）

○ 同梱のグランドセイコー規格検定合格証明書は、ケース組込み前のムーブメント単体の状態で、製造工場内の人工的に管理された環境の下で計測した実測値が、グランドセイコー規格検定に合格したことを証明するものです。紛失された場合、または修理・調整後の再発行はできません。

■製品取扱上のご注意

⚠警告 取り扱いを誤った場合に、重症を負うなどの重大な結果になる危険性が想定されることを示します。

次のような場合、ご使用を中止してください

○ 時計本体やバンドが腐食などにより鋭利になった場合
○ バンドのピンが飛び出してきた場合
※ すぐに、お買い上げ店・弊社お客様相談窓口にご連絡ください。

乳幼児の手の届くところに、時計本体や部品を置かないでください

部品を乳幼児が飲み込んでしまうおそれがあります。
万が一飲み込んだ場合は、身体に害があるため、ただちに医師にご相談ください。

⚠注意 取り扱いを誤った場合に、軽症を負う危険性や物質的損害をこうむることが想定されることを示します。

以下の場所での携帯・保管は避けてください

○ 揮発性の薬品が発散しているところ(除光液などの化粧品、防虫剤、シンナーなど)
○ 5℃～35℃を外れる温度に長期間なるところ
○ 高湿度なところ
○ 磁気や静電気の影響があるところ
○ ほこりの多いところ
○ 強い振動のあるところ

アレルギーやかぶれを起こした場合

ただちに時計の使用をやめ、皮膚科など専門医にご相談ください。

その他のご注意

○ 金属バンドの調整は専門知識・技能が必要ですので、お買い上げ店にご依頼ください。
手や指などにけがをする可能性があるほか、部品を紛失する可能性があります。
○ 商品の分解・改造はしないでください。
○ 乳幼児に時計が触れないようにご注意ください。
けがやアレルギーをひき起こすおそれがあります。
○ 提げ時計やペンダント時計の場合、ひもやチェーンの取り扱いにご注意ください。
衣類や手・首などを傷つけたり、首を締めたりするおそれがあります。
○ 時計を外してそのまま置くと、裏ぶたとバンドや中留が擦れて、裏ぶた表面に傷が付く可能性がありますのでご注意ください。時計を外した場合は、柔らかい布等を挟んで置くことをお勧めします。

■ キャリバー番号および防水性能ご確認のお願い

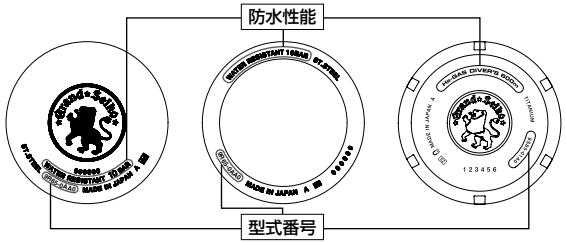
キャリバーについて

ムーブメント（時計の機械体）の型式を表す４桁の番号です。グランドセイコーには専用のキャリバーが搭載されており、メカニカルキャリバーは９S、スプリングドライブキャリバーは９R、クオーツキャリバーは９F、４Jから始まる４桁で表されます。

確認方法

裏ぶたに記載の型式番号４桁がキャリバー番号となります。

〈通常の裏ぶたの場合〉　〈シースルー仕様裏ぶたの場合〉　〈ダイバーズモデルの裏ぶたの場合〉



【例】9S85-00A0
キャリバー番号

※ 上記の図は例であり、お買上げいただいた時計とは異なる場合があります。

防水性能について

お買い上げいただいた時計の防水性能を
下記の表でご確認の上ご使用ください。

裏ぶた表示	防水性能	お取扱方法
防水性能表示なし	非防水です。	水滴がかかったり、汗を多くかく場合には、使用しないで下さい。
WATER RESISTANT	日常生活用防水です。	日常生活での「水がかかる」程度の環境であれば使用できます。 ⚠警告 水泳には使用しないで下さい。
WATER RESISTANT 5 BAR	日常生活用強化防水で5気圧防水です。	水泳などのスポーツに使用できます。
WATER RESISTANT 10（20）BAR	日常生活用強化防水で10(20)気圧防水です。	空気ボンベを使用しないスキンダイビングに使用できます。
AIR DIVER'S 200m	空気潜水用防水で200メートル防水です。	空気ボンベを使用するスキューバダイビングに使用できます。
He-GAS DIVER'S 600m	飽和潜水用防水で600メートル防水です。	ヘリウムガスを使用する飽和潜水に使用できます。

■ 防水性能に関するご注意

⚠注意

水分のついたまま、りゅうずやボタンを操作しないでください

時計内部に水分が入ることがあります。

※ 万が一、ガラス内面にくもりや水滴が発生し、長時間消えない場合は防水不良です。
お早めに、お買い上げ店・弊社お客様相談窓口にご相談ください。

水や汗、汚れが付着したままにしておくのは避けてください

防水時計でもガラスの接着面・パッキンの劣化やステンレスがさびることにより、防水不良になるおそれがあります。

入浴やサウナの際はご使用を避けてください

蒸気や石けん、温泉の成分などが防水性能の劣化を早めることがあります。

性能表示が「WATER RESISTANT」の場合

⚠警告

この時計はスキューバダイビングや飽和潜水には絶対に使用しないでください

スキューバダイビングや飽和潜水用の時計に必要とされる過酷な環境を想定した様々な厳しい検査を行っていません。
専用のダイバーズウオッチをご使用ください。

⚠注意

直接蛇口から水をかけることは避けてください

水道水は非常に水圧が高く、日常生活用強化防水の時計でも防水不良になるおそれがあります。

性能表示が「AIR DIVER'S」の場合

⚠警告
○ ヘリウムガスを使用する「飽和潜水」には絶対に使用しないでください。
○ 潜水中は、本取扱説明書で指示された操作以外は絶対にしないでください。

⚠注意 ダイビングでのご使用にあたっては、各種のダイビングに関する安全教育やトレーニングを受け、ルールを守ってご使用ください。

性能表示が「He-GAS DIVER'S」の場合

⚠警告
○ 本製品は飽和潜水に対応しています。飽和潜水に必要不可欠な経験と技術を有し、本製品の操作と取り扱いを完全にマスターし、毎回の潜水前に本製品を点検してください。そうでなければ、本製品を使用する飽和潜水は行わないでください。
○ 文字板や裏ぶたの深度表示をしっかりと確認し、それ以上深い場所でのご使用はお避けください。
○ 潜水中は、本取扱説明書で指示された操作以外は絶対にしないでください。

⚠注意 ダイビングでのご使用にあたっては、各種のダイビングに関する安全教育やトレーニングを受け、ルールを守ってご使用ください。

潜水に際しての注意事項（空気潜水時、飽和潜水時共通）

○ 潜水前

次の項目を点検してください。

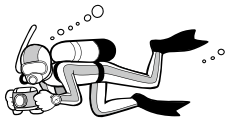
⇒ 各部の名称 P.15

① 時刻が正確にセットされているか。
② 潜水中に止まらないよう、りゅうずを回して、十分にぜんまいを巻き上げてください。
※「ねじロック式りゅうずについて」→ P.17
※「ぜんまいの巻きかた」P.18
③ 回転ベゼルの回り具合は良好か。（ゆるすぎたり、きつすぎたりしないか。）
⇒ 回転ベゼルについて P.30
④ りゅうずのねじをしっかりしめてあるか。
⇒ ねじロック式りゅうずについて P.17
⑤ バンドとガラスにひび、欠けなどの異常がないか。
⑥ バンドの固定は確実か。（ばね棒、中留、その他）

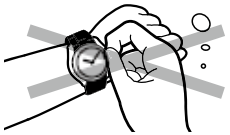
⚠注意 万が一、異常が認められた場合はお買い上げ店、またはお客様相談室にご相談ください。

○ 潜水中

次の項目をご確認の上、ご使用ください。

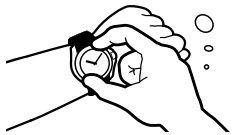


文字板などに記された深度までの範囲でご使用ください。



水中でのりゅうずやボタンの操作はしないでください。

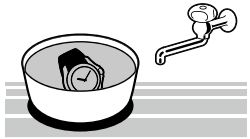
岩などにぶつけないように注意してください。



回転ベゼルは水の中ではやや回転がきつくなることがありますが、異常ではありません。

○ 潜水後

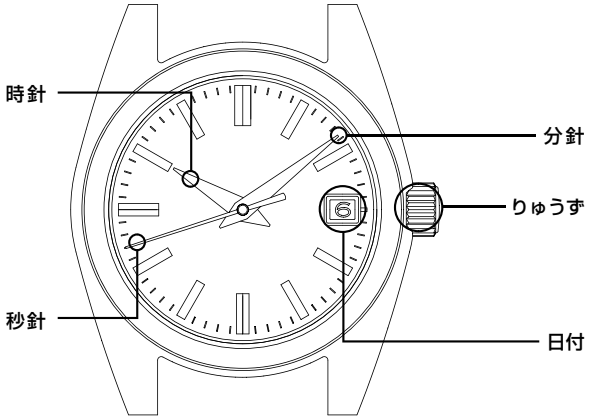
潜水後のお手入れは、次のように行ってください。



必ず真水でよく洗ってから、ふき取ってください。
直接蛇口から水をかけることは避け、容器に水をためるなどしてから洗ってください。

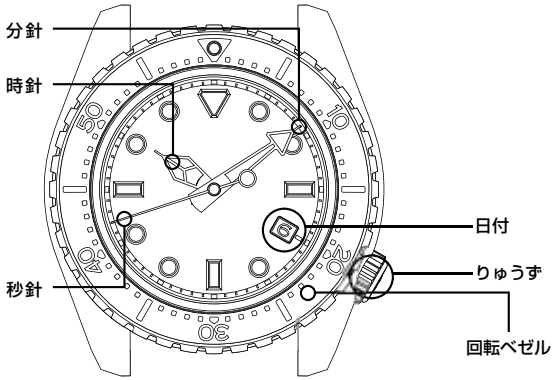
■各部の名称

9S85、9S68、9S65、9S25（標準タイプ）



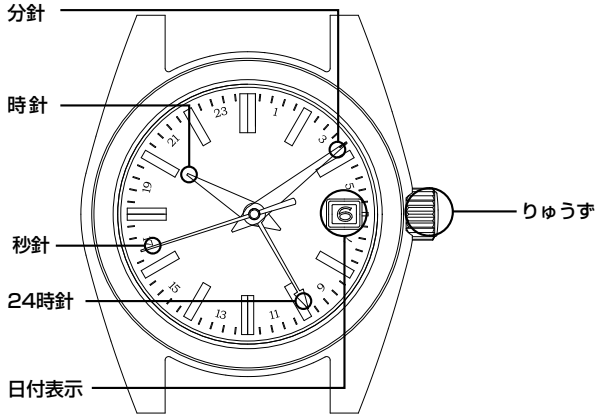
⇒ 時刻･日付の合わせかた P.18

9S85（ダイバーズタイプ）



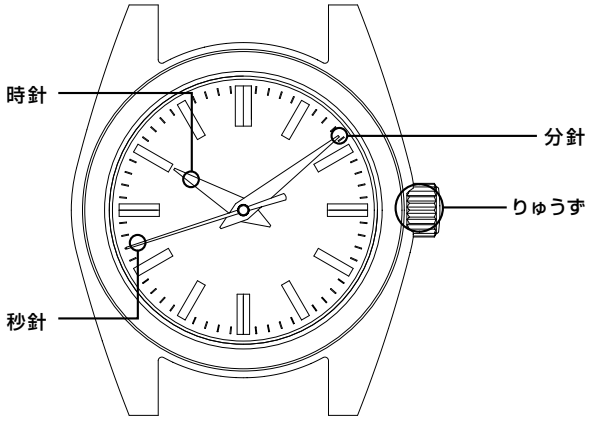
⇒ 時刻･日付の合わせかた P.18
⇒ ダイバーズモデルの機能 P.30
⇒ 潜水に際しての注意事項 P.13

9S86、9S66



⇒ 時刻の合わせかた P.20

9S64、9S61



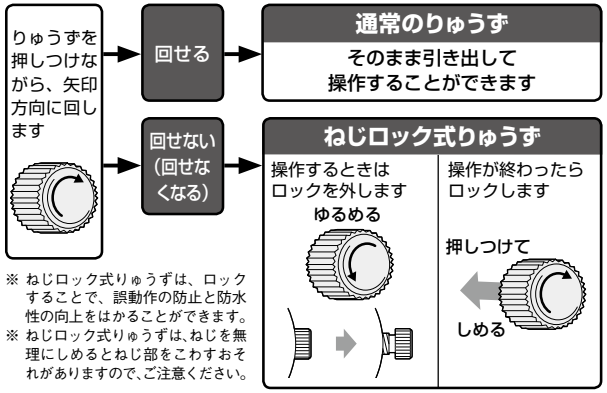
⇒ 時刻の合わせかた P.29

※ 表示の位置やデザインは、モデルによって異なる場合があります。

■ ご使用方法

りゅうずについて

りゅうずには、通常のものとロックできる構造のものの、2つのタイプがあります。お使いの時計のりゅうずをご確認ください。



※ ねじロック式りゅうずは、ロックすることで、誤動作の防止と防水性の向上をはかることができます。
※ ねじロック式りゅうずは、ねじを無理にしめるとねじ部をこわすおそれがありますので、ご注意ください。

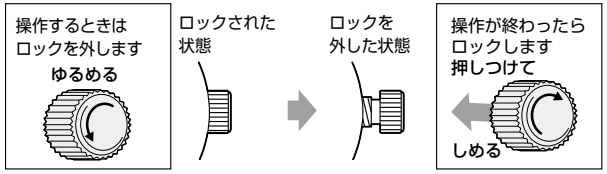
ねじロック式りゅうずについて

誤作動の防止と防水性の向上のために、使わないときはりゅうずをねじでロックできる構造です。

○ りゅうずを操作するときはロックを外してください
○ 操作が終わったらロックしてください

[ロックの外しかた]
りゅうずを左（下方向）に回してください。ねじがゆるんで、りゅうずが操作できるようになります。

[ロックのしかた]
りゅうずを時計本体に軽く押しつけながら、右（上方向）に止まるところまで回してください。



※ ロックするときは、ねじのかみあい具合に注意してゆっくりと押しながら回してください。無理に押し込むと、ねじ部（ケース）を壊す恐れがありますのでご注意ください。

ご使用方法（9S85、9S68、9S65、9S25の場合）

ぜんまいの巻きかた

○ この時計は、自動巻機械式時計（手巻つき）です。
○ ぜんまいは時計を腕に着けた状態では通常の腕の動きで自然に巻くことができます。またりゅうずを回してもぜんまいを巻くこともできます。
○ 止まっている時計をお使いになるときは、時計を振っても動き出しますが、りゅうずを回しぜんまいが十分に巻かれた状態にしまして、日付と時刻を合わせてから腕にお着けください。ぜんまいを巻く際には、りゅうず0段位置で右方向（12時方向）にゆっくりと回してください。なお、りゅうずは左方向（6時方向）では空回りするようになっています。9S85の場合はりゅうずを約45回転、9S68、9S65の場合は約60回転、9S25の場合は約30回転すれば十分に巻き上げることができます。また、ぜんまいはフル巻上げ状態でスリップするようになっております。ぜんまいを切る心配はありませんが過剰な操作はお控えください。

※ ぜんまいの巻き上げ量が不足しますと進み遅れの原因になりますので、一日10時間以上携帯することをお勧めします。また、時計を腕に着けないでご使用される場合は、毎日一定の時刻にりゅうずを回しぜんまいを十分に巻いてご使用ください。

⚠ご注意

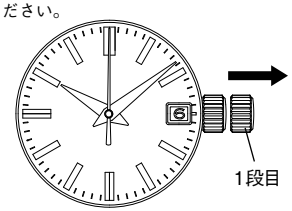
○ 時刻表示が午後10時から午前1時までの間（9S25の場合は午後11時から午前1時までの間）、日付の修正をしないでください。
この時間帯に日付を修正しますと、翌日になっても日付が切り変わらないことや、故障の原因となる場合があります。
○ 機械式時計は輪列の機構上、時刻を合わせる際には、針をいったん正しい時刻よりやや遅らせておき、それから進めて合わせるようにしてください。

時刻・日付の合わせかた

この時計には、日付表示機能がついています。24時間に一回日付を一日分送るようになっています。
日付は、「午前0時」ごろ送るようになっています。よって、午前午後をまちがえて時刻合わせをしてしまいますと、お昼の「12」時ごろに日付が変わってしまいます。

① りゅうずを1段目まで引き出してください。
（ねじロック式の場合は、ロックを解除してください。）
② りゅうずを右方向（12時方向）に回すことで、日付の修正ができます。まず、合わせたい日の前日の日付に合わせます。

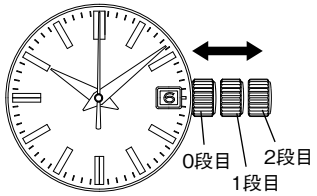
【例】合わせる日付が「6日」の場合、「5日」に合わせます。



③ りゅうずを2段目まで引き出します。
秒針が「12時」の位置にきたときに引き出してください。（秒針が止まります。）
りゅうずを、針が進むよう左にまわし、日付が今日の日付になるまでまわしてください。　日付が変わると「午前」です。さらに進めて現在の時刻に合わせます。

④ 時報と同時にりゅうずを0段目まで押し込むと動き出します。

※ 時刻合わせは、電話の時報サービスTEL.117が便利です。

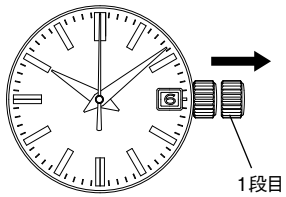


⚠ご注意　ねじロック式の場合は、必ずりゅうずを元通りに締めてください。

月末の日付修正について

2月（一ヶ月が28日、うるう年は29日）と小の月（一ヶ月が30日）では日付の修正が必要になります。

【例】小の月の翌月1日の朝、日付を修正する場合
「1日」ではなく「31日」が表示されています。りゅうずを1段目に引き出してください。りゅうずを右回転させ、日付を「1日」に合わせ、りゅうずを押し込んでください。



⚠ご注意　ねじロック式の場合は、必ずりゅうずを元通りに締めてください。

ご使用方法（9S86、9S66の場合）

ぜんまいの巻きかた

○ この時計は、自動巻機械式時計（手巻つき）です。
○ ぜんまいは時計を腕に着けた状態では通常の腕の動きで自然に巻くことができます。またりゅうずを回してもぜんまいを巻くこともできます。
○ 止まっている時計をお使いになるときは、時計を振っても動き出しますが、りゅうずを回しぜんまいが十分に巻かれた状態にしまして、日付と時刻を合わせてから腕にお着けください。ぜんまいを巻く際には、りゅうず0段位置で右方向（12時方向）にゆっくりと回してください。なお、りゅうずは左方向（6時方向）では空回りするようになっています。9S86の場合はりゅうずを約45回転、9S66の場合は約60回転すれば十分に巻き上げることができます。また、ぜんまいはフル巻上げ状態でスリップするようになっております。ぜんまいを切る心配はありませんが過剰な操作はお控えください。

※ ぜんまいの巻き上げ量が不足しますと進み遅れの原因になりますので、一日10時間以上携帯することをお勧めします。また、時計を腕に着けないでご使用される場合は、毎日一定の時刻にりゅうずを回しぜんまいを十分に巻いてご使用ください。

時刻・日付を合わせるには

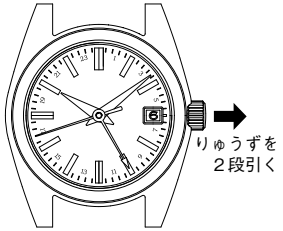
○ 時刻・日付を合わせるときは、２４時針と分針を最初に合わせ、その後で時針と日付を合わせます。
○ 必ずゼンマイが巻き上げられた状態で、時刻合わせをしてください。

時刻の合わせかた

① ぜんまいが巻き上げられた状態で、時計が動いていることを確認します。
※ 日付・時刻を合わせるときは、必ず時計が動いている状態で行ってください。

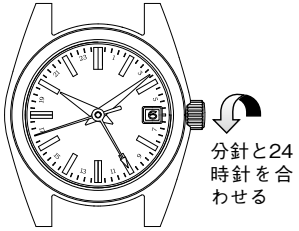
② りゅうずのロックを外してください。
⇒ ねじロック式りゅうずについて P.17 参照

③ 秒針が０秒位置にあるときにりゅうずを２段目まで引き出し、秒針を止めます

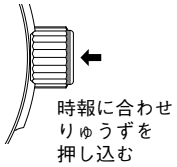


日本語

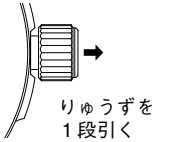
④ 時計回りに針が進むように、りゅうずを左に回し、分針と２４時針に注目しながら時刻を合わせます。合わせたい時刻の手前から、分針をゆっくり進めて合わせてください。
※ 時針が、合わせたい時刻とは異なる時刻を指しているときや、時計の位置によって日付が変わることがありますが、まず先に、分針と２４時針を合わせましょう。



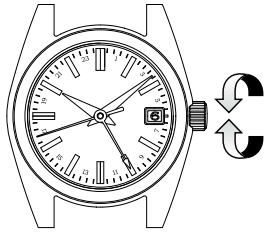
⑤ 時報などに合わせてりゅうずを押し込みます。
※ これで２４時針、分針、 秒針が現在時刻に合った状態になります。



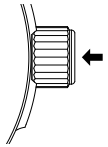
⑥ 次に、時針と日付を合わせます。りゅうずを１段目まで引き出してください。



⑦ りゅうずを回して時針を合わせます。りゅうずを回したときに日付が変わるところが午前０時です。午前・午後を確認して時刻を合わせましょう。
日付を合わせたいときは、ここで一緒に合わせてください。
※ りゅうずはどちらの方向へも回せますが、できるだけ日付修正が少ない方向で合わせてください。
※ りゅうずを回すときは、時針の一時間単位の動きを確認しながら、ゆっくりと回してください。
※ 時針を合わせているときに、他の針が少し動くことがありますが故障ではありません。



⑧ りゅうずを押し込むと操作は完了です。
りゅうずをロックしてください。
⇒ ねじロック式りゅうずについて P.17 参照



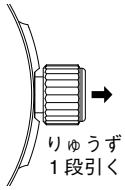
日付の合わせかた

日付を合わせるには、時針を２周させて一日分の日付修正を行います。
時針を、時計回りに２周（２４時間分）回すと「日を送る」ことができます。
逆に回すと「日を戻す」ことができます。
※ 小の月（2、4、6、9、11月）が終わった翌日などに日付合わせを行ってください。

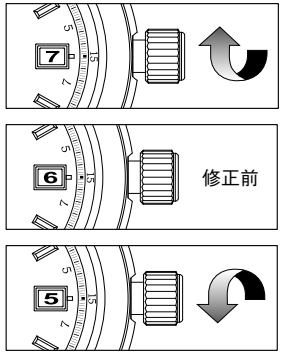
① ぜんまいが巻き上げられた状態で、時計が動いていることを確認します。
※ 日付・時刻を合わせるときは、必ず時計が動いている状態で行ってください。

② りゅうずのロックを外してください。
⇒　ねじロック式りゅうずについて P.17

③ りゅうずを１段目まで引き出してください。



④ りゅうずを回して、時針を２周させるごとに、日付が「一日分」修正されます。
りゅうずを回したときに日付が変わるところが午前０時です。
午前・午後を確認して合わせましょう。



右（上方向）に回す：
時針を２周させると日付が一日送られます。

※ りゅうずはどちらの方向へも回せますが、できるだけ修正が少ない方向で合わせてください。
※ りゅうずはゆっくりと回してください。
※ 時針を合わせているとき、他の針が少し動くことがありますが故障ではありません。

左（下方向）に回す：
時針を２周させると日付が一日戻ります。

⑤ 操作が終わったら、時刻が合っているかどうかを確認してりゅうずを押し込んでください。これで操作は完了です。
りゅうずをロックしてください。
⇒　ねじロック式りゅうずについて P.17 参照

※ この操作では時針と日付が連動して動きます。
そのため、時刻の午前・午後が合っていないと、日付が半日ずれることがあります。
※ りゅうずはどちらの方向へも回せますが、できるだけ日付修正が少ない方向で合わせてください。
※ りゅうずを回すときは、時針の一時間単位の動きを確認しながら、ゆっくりと回してください。
※ 時針を合わせているときに、他の針が少し動くことがありますが故障ではありません。

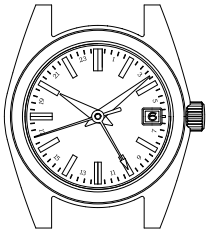
24時針の使いかた

24時針には以下の２つの機能があります。

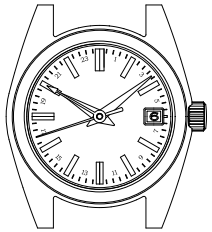
タイプ１：午前・午後を区別する
時分針が示す時刻を24時間制で表示する（通常の使いかた）

タイプ２：デュアルタイムとして使う
時差修正機能を使って、時分針が示す時刻とは異なる地域の時刻を表示する（一時間以上の時差がある地域の時刻）

時分針、24時針ともに
日本時間（午前10時）



時分針：日本時間（午前10時）
24時針：ニューヨーク（午後8時）



時差修正機能について

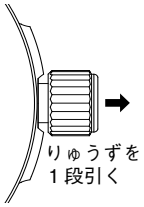
時差のある地域へ移動するときなどに、簡単に目的地の時刻に合わせられます。操作のときに時計を止めることがありません。
時針は目的地の時刻を示し、２４時針は元の地域の時刻を示します。
時針は日付と連動しているため、正しい操作が行なわれると目的地の日付を表示します。

時差修正機能の使いかた

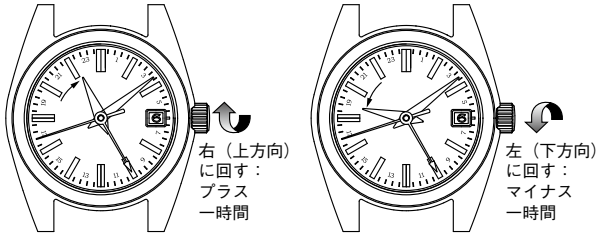
① ぜんまいが巻き上げられた状態で、時計が動いていることを確認します。
※ 操作は、必ず時計が動いている状態で行ってください。

② りゅうずのロックを外してください。
⇒　ねじロック式りゅうずについて P.17 参照

③ りゅうずを１段目まで引き出してください。



④ りゅうずを回して目的地の時刻に合わせます。
午前・午後、日付を確認して合わせましょう。
※ この操作では時針と日付が連動して動きます。
時刻の午前・午後が合っていないと、日付が半日ずれることがあります。
⇒　世界の主な地域の時差一覧 P.26



※ りゅうずはどちらの方向へも回せますが、できるだけ修正が少ない方向で合わせてください。
※ りゅうずを回すときは、時針の一時間単位の動きを確認しながらゆっくりと回してください。
※ りゅうずを回したときに日付が変わるところが午前０時です。
※ 時針を合わせているとき、他の針が少し動くことがありますが故障ではありません。

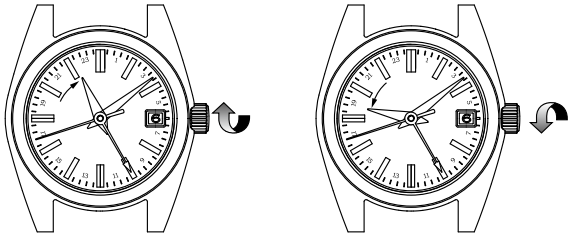
⑤ 操作が終わったら、時刻が合っているかどうかを確認してりゅうずを押し込んでください。これで操作は完了です。
りゅうずをロックしてください。
⇒　ねじロック式りゅうずについて P.17 参照

※ ＰＭ９：００～ＡＭ1：００の時間帯に時刻を合わせるときは、時針をＰＭ８：００まで戻してから合わせてください。

日本語

目的別の使いかた

時差修正機能を使うと、２つの地域の時刻を表示させるデュアルタイムとしてお使いいただけます。表示のしかたは２通りあり、目的によって使い分けることができます。



【例１】
時針・日付：A地域（日本）
２４時針：B地域（ニューヨーク）

【例１】
時針・日付：B地域（ニューヨーク）
２４時針：A地域（日本）

２４時針を合わせた後で、時針を合わせます。

世界の主な地域の時差一覧

都市名	世界標準時(UTC)	日本標準時(JST)	その他の地域
東京	+9:00	±0:00	ソウル
北京	+8:00	-1:00	香港、マニラ、シンガポール
バンコク	+7:00	-2:00	ジャカルタ
ダッカ	+6:00	-3:00	
カラチ	+5:00	-4:00	タシケント
ドバイ	+4:00	-5:00	
ジッダ	+3:00	-6:00	ナイロビ、メッカ
カイロ	+2:00	-7:00	★アテネ
★パリ	+1:00	-8:00	★ローマ、★ベルリン、★マドリード
★ロンドン	±0:00	-9:00	★カサブランカ
★アゾレス諸島	-1:00	-10:00	
★リオデジャネイロ	-3:00	-12:00	
サントドミンゴ	-4:00	-13:00	
★ニューヨーク	-5:00	-14:00	★モントリオール
★シカゴ	-6:00	-15:00	★メキシコシティ
★デンバー	-7:00	-16:00	
★ロサンゼルス	-8:00	-17:00	★サンフランシスコ
★アンカレッジ	-9:00	-18:00	
ホノルル	-10:00	-19:00	
ミッドウェー島	-11:00	-20:00	
★ウェリントン	+12:00	+3:00	フィジー
ヌメア	+11:00	+2:00	
★シドニー	+10:00	+1:00	グアム

※ ★印の地域ではサマータイムが導入されています。
※ 各地域の時差及びサマータイムの有無は、2018年1月時点の情報に基づいております。これらは、国または地域の都合により変更される場合があります。

ご使用方法（9S64の場合）

ぜんまいの巻きかた

○ この時計は、手巻機械式時計です。
○ ぜんまいを十分に巻き上げるために必要なりゅうずをまわす回数は、次表を目処にしてください。

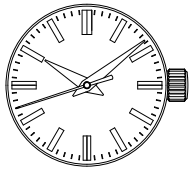
ぜんまいを毎日巻き上げてご使用する場合	りゅうずを約20回転まわすことにより十分巻き上げることができます。
3日以上巻き上げなかった場合	りゅうずを約60回転まわすことにより十分巻き上げることができます。

○ ぜんまいが十分に巻き上げられた状態での可動時間は約72時間です。
○ ぜんまいの巻き上げ量が不足しますと進み遅れの原因になります。より良い精度でご使用いただくためには、ぜんまいを毎日一定の時刻に十分に巻いてご使用されることをおすすめします。

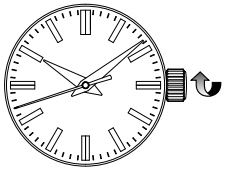
一般的な多くの手巻時計は、りゅうずをまわしてぜんまいの巻き上げが完了すると、りゅうずはそれ以上回転しません。機種9S64は巻き上げが完了してもりゅうずは止まらず回転させることができますが、りゅうずを巻く感触が重くなるように機構上で配慮してあります。なお、りゅうずを回転し続けても時計が壊れることはありませんが過剰な操作はお控えください。

※ ぜんまいが解けて止まった状態からお使いの場合、りゅうずでぜんまいを巻き上げても直ぐには動きません。機械式時計の特徴でぜんまい巻き始めのぜんまいトルク（力）が弱いためです。ぜんまいが巻かれてある程度の強いトルクに達すると秒針が動き始めますが、早めに動かすためには、時計を振りてんぶを強制的に回転させることで動かすことができます。

りゅうずは引き出さないでください。
（ねじロック式の場合は、ロックを解除してください）



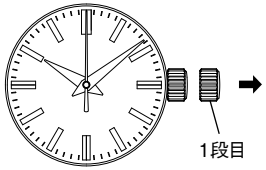
りゅうずを右（12時方向）にゆっくり回して、ぜんまいを巻き上げます。



⚠ご注意 ねじロック式の場合は、必ずりゅうずを元通りに締めてください。

時刻の合わせかた

① りゅうずを引き出します。
秒針が「12時」の位置にきたときに引き出してください。（秒針が止まります。）
りゅうずをまわして時刻を合わせてください。
② 時報と同時にりゅうずを押し込むと動き出します。
※ 時刻合わせは、電話の時報サービスTEL.117が便利です。



ご使用方法（9S61の場合）

日本語

ぜんまいの巻きかた

○ この時計は、自動巻機械式時計（手巻つき）です。
○ ぜんまいは時計を腕に着けた状態では通常の腕の動きで自然に巻くことができます。またりゅうずを回してもぜんまいを巻くこともできます。
○ 止まっている時計をお使いになるときは、時計を振っても動き出しますが、りゅうずを回しぜんまいが十分に巻かれた状態にしまして、日付と時刻を合わせてから腕にお着けください。ぜんまいを巻く際には、りゅうず0段位置で右方向（12時方向）にゆっくりと回してください。なお、りゅうずは左方向（6時方向）では空回りするようになっています。りゅうずを約60回転すれば十分に巻き上げることができます。また、ぜんまいはフル巻上げ状態でスリップするようになっております。ぜんまいを切る心配はありませんが過剰な操作はお控えください。

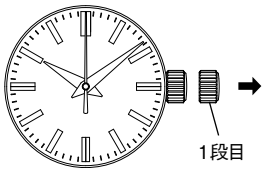
※ ぜんまいの巻き上げ量が不足しますと進み遅れの原因になりますので、一日10時間以上携帯することをお勧めします。また、時計を腕に着けないでご使用される場合は、毎日一定の時刻にりゅうずを回しぜんまいを十分に巻いてご使用ください。

⚠ご注意

○ ねじロック式の場合は、必ずりゅうずを元通りに締めてください。
○ 機械式時計は輪列の機構上、時刻を合わせる際には、針をいったん正しい時刻よりやや遅らせておき、それから進めて合わせるようにしてください。

時刻の合わせかた

① りゅうずを引き出します。
秒針が「12時」の位置にきたときに引き出してください。（秒針が止まります。）
りゅうずをまわして時刻を合わせてください。
② 時報と同時にりゅうずを押し込むと動き出します。
※ 時刻合わせは、電話の時報サービスTEL.117が便利です。



■ ダイバーズモデルの機能

回転ベゼルについて

回転ベゼルを使って、潜水などの経過時間を測定することができます。

この時計の回転ベゼルは、逆回転防止ベゼルです。ダイバーズウオッチでは、潜水時間がエア残量に影響するため、ベゼル上での経過時間が実際の潜水時間よりも短くならないように、反時計回りにしか回転しない構造になっています。

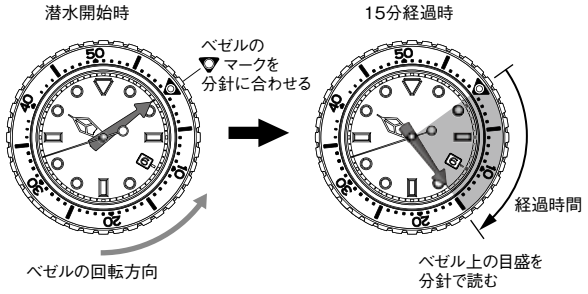
⚠注意 潜水時には、エア残量の確認をしっかりと行い、回転ベゼルによる経過時間はひとつのめやすとお考えください。

回転ベゼルの使いかた

① 潜水開始時などの時間の測定を開始するタイミングで、回転ベゼルを回して、▽マークを分針に合わせます。

② 経過時間は、分針が示すベゼル上の目盛です。

【例】10時10分に潜水を開始した場合



ダイバーアジャスターについて

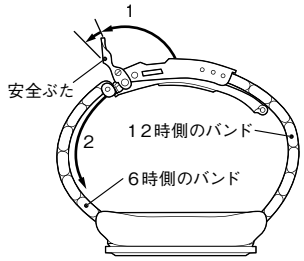
メタルバンドで、ダイバーアジャスター機構がついている場合、バンドの長さを簡単に調節できます。ウエットスーツや防寒着などの上に時計を着用する際などにお役立てください。

日本語

ダイバーアジャスターの使いかた

① 安全ぶたを90度起こし、さらに20度倒し、そのまま軽く押さえる。
※ 多少抵抗がありますが、軽い力で倒れますので力を入れすぎないようにご注意ください。

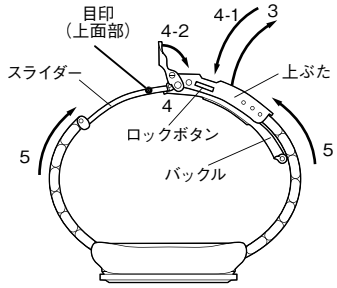
② 6時側のバンドをバンドのカーブに沿う方向に（曲線を描くように）引く。
※ この操作も軽い力で出来ますので、力を入れ過ぎないようにしてください。
※ スライダーは約30mm伸びます。無理に引き出さないようにご注意ください。



③ プッシュボタンを押しながら上ぶたを持ち上げて、中留を開き、手首に着ける。

④ 上ぶた（4-1）、安全ぶた（4-2）の順にふたを閉じる。

⑤ 時計を着けていない方の手で、バンドを適当なところまで縮める。



■ グランドセイコー規格について

機械式時計の携帯使用時の精度は、ムーブメント（駆動体）構造上の理由により、使用される環境条件の違い（一日の腕の運動量によるぜんまいの巻上げ具合、温度環境、姿勢＝時計の向き　など）によって変化します。
「グランドセイコー規格」とは、時計が使用される環境条件の違いによらずに、グランドセイコー機械式時計の優れた性能を確認するために設定されたセイコー独自の機械式時計用精度規格です。なお、婦人用モデルに用いられている9S25については、他のものとは異なる「グランドセイコー規格（婦人用）」を定めています。
⇒「グランドセイコー規格」の詳細についてはP.33をご覧ください。
すべてのグランドセイコー機械式時計は、この厳格な規格に基づく「グランドセイコー規格検定」に合格することを条件としております。ケース組込み前のムーブメント単体の状態で、製造工場内の人工的に管理された様々な環境下において合計17日間にわたって時間の進み／遅れ（日差）を計測し、それらの数値が基準内にあるもののみに「グランドセイコー」の称号が与えられます。

お客様が実際に携帯使用される場合の精度は、一日あたり－１～＋10秒（9S86、9S85の場合は－1～＋8秒、9S25の場合は－5～＋10秒）の範囲を目安としております。
携帯使用時の精度を正しく判断するには、一日のみではなく、通常のご使用状態で一週間から10日間程度お使いになって進み／遅れをみてください。その一日あたりの平均値が上記目安の範囲を超える場合は、調整させていただきます。（ご購入後3年以内は無料、それ以降は有料。）また、次のような場合はご購入後の期間に関わらず有料対応とさせていただきます。
- ○ 誤ったご使用方法や、磁気を帯びさせてしまう等、お客様の不注意により精度の狂いが乗じているとき
- ○ 弊社以外での修理により精度の狂いが生じているとき
- ○ 火災または水害・地震などの天災地変により精度の狂いが生じているとき
- ○ 保証書の字句を書き換えられた場合

グランドセイコースペシャル規格

グランドセイコースペシャル規格とは、グランドセイコー規格より一層厳しい条件が設定された精度規格です。この規格検定に合格したキャリバーを搭載するモデルはその証として、文字板に「SPECIAL」ロゴマークが表記されます。

グランドセイコー規格の内容

項目	単位	規格値	規格値（婦人用）	スペシャル規格値
平均日差	秒／日	−3.0 ～ +5.0	−3.0 ～ +8.0	−2.0 ～ +4.0
平均日較差	秒／日	1.8以下	3.2以下	1.6以下
最大日較差	秒／日	4.0以下	6.0以下	3.0以下
水平垂直差	秒／日	−6.0 ～ +8.0	−8.0 ～ +10.0	−5.0 ～ +7.0
最大姿勢偏差	秒／日	8.0以下	13.0以下	7.0以下
第一温度係数	秒／日／℃	−0.5 ～ +0.5	−0.6 ～ +0.6	−0.3 ～ +0.3
第二温度係数	秒／日／℃	−0.5 ～ +0.5	−0.6 ～ +0.6	−0.3 ～ +0.3
復元差	秒／日	−5.0 ～ +5.0	−6.0 ～ +6.0	4.0
検定姿勢数		6姿勢		
検定温度		8℃，23℃，38℃		
検定日数		17日間		

グランドセイコー規格の用語説明

項目	意味
検定姿勢	時計性能の様々なテストを実施するために、国際規格ISO3159で5方向の向きが規定されている。GS検定ではそれに加え、12時上姿勢を追加し6方向としている。（文字板上、文字板下、12時上、3時上、6時上、9時上）
平均日差	異なる6姿勢で各2日ずつ実測した合計12の日差データの平均値のこと。時計の一日あたりの基本的な進み・遅れを示す目安だが、実際の精度実力は、他の項目を含めた総合的な判断が必要である。
平均日較差	異なる6姿勢で各2日ずつ実測した際の一日目と2日目の日差の変化量6データの平均値のこと。各姿勢での日毎の精度がどの程度安定しているかを示している。
最大日較差	異なる6姿勢で各2日ずつ実測した際の一日目と2日目の日差の変化量6データ中の最大値のこと。日毎の精度が、姿勢によって最大どの程度変化しているかを示している。
水平垂直差	日常生活で最も使われると想定される2姿勢における進み・遅れを表す。時計を文字板上姿勢で置いた場合の2日間の平均日差と、6時上姿勢で置いた場合の2日間の平均日差との差。
最大姿勢偏差	試験初期の12日間の日差と、平均日差との差の最大値。時計の置き方により、日差がどの程度変化しているかを表す。
第一温度係数	同一姿勢（文字板上）において、38℃から8℃までの環境での1℃あたりの日差の変化量。時計が使用される温度環境（腕から外した状態を想定）での進み・遅れを示している。
第二温度係数	同一姿勢（文字板上）において、38℃から23℃までの環境で1℃あたりの日差の変化量。時計が使用される温度環境（腕に装着した状態を想定）での進み・遅れを示している。
復元差	検定最後の一日の日差から最初の2日間の平均日差を差し引いた値。時計をある一定期間使用後に、日差がどの程度安定しているかを表す。

グランドセイコー規格検定合格証明書について

○ グランドセイコー規格検定合格証明書は、ケース組込み前のムーブメント単体の状態で、製造工場内の人工的に管理された環境の下で計測した実測値が、グランドセイコー規格検定に合格したことを証明するものです。搭載されている機種番号、個別のムーブメント製造連番およびケース製造連番が印字されています。

○ 機械式時計の携帯使用時の精度は、お客さまそれぞれのご使用条件（一日の腕の運動量によるぜんまいの巻上げ具合、温度環境、姿勢[時計の向き]など）によって変化するものです。従いまして、お客さまが実際に携帯使用される場合の精度はグランドセイコー規格に定められた各項目の数値とは異なることがあります。

⚠注意

グランドセイコー規格検定合格証明書を紛失された場合の再発行はできません。
また、時計を修理・調整した後の再発行もできません。

機械式時計の精度についてご注意事項

機械式時計はぜんまいが巻き解ける力を動力にして針を動かし、小さな金属部品同士が物理的に働き合って精度をコントロールする機構です。機械式時計の繊細な金属部品は、温度や重力、衝撃などの外部環境や、携帯時間やぜんまいの巻上げ量といった使用状況の影響を受けやすく、それが時計の進み／遅れとして現れてきます。

① 機械式時計の精度は「平均日差」

クオーツ時計の精度は月差±15秒や年差±10秒というように、月や年単位で表されます。これは、一ヶ月あるいは一年を通して使った場合にトータルの精度誤差がどの位であるかということを示しています。
これに対し機械式時計の精度は「平均日差」で表すのが一般的です。
機械式時計の精度は様々な使用環境の影響を受けて毎日微妙に変化し、一定していないのが普通です。そこで一日のみではなく、一週間から10日間程度使用した場合の平均値を見て精度の良し悪しを判断する必要があります。
グランドセイコー機械式時計の携帯使用時の精度は、一日あたり－１～＋10秒（9S86、9S85の場合は－1 ～＋8秒、9S25の場合は－5 ～＋10秒）の範囲を目安としております。通常のご使用状態で、一週間から10日間程度お使いになった際の平均値がこの目安範囲を超えてしまう場合は、調整させていただきます。

＊ご購入後3年以内は無料、それ以降は有料。ただしご使用期間が長く、部品が経年劣化している場合にはご希望の精度に調整できないこともありますので予めご了承ください。 ⇒詳しくはP.32およびP.36をご覧ください。

② 精度に影響を与える要素：その1　ぜんまいの巻上げ量

機械式時計をより良い精度でお使いいただくためには、ぜんまいからなるべく一定した強いエネルギーが各部品に供給されることが必要です。
ぜんまいがいっぱいに巻き上げられている状態では精度も安定していますが、ぜんまいがほどけてきて供給されるエネルギーが弱まると、精度を制御する部品が外部からの影響を受けやすくなり、精度も不安定になります。
安定した精度でお使いいただくためには、ぜんまいが十分に巻き上げられた状態でご使用することをお勧めします。

③ 精度に影響を与える要素：その2　温度の影響

機械式時計の部品は金属製なので、温度の変化によって微妙に伸び縮みし、それが精度に影響を与えます。一般に高温下では遅れがちに、低温下では進みがちになります。

④ 精度に影響を与える要素：その3　姿勢（時計の向き）による差

機械式時計の精度に関わる部品は、地球の重力からも影響を受けています。例えば時計を水平にしたときと、12時側を上にして時計を立てて置いたときでは、進み・遅れが変わります。
時計を腕に着用しないときは、置きかたによって着用中に生じた精度の誤差をある程度補正することもできます。様々な向きをお試しになり、ご自分の時計に合う置き方を見つけてください。

■ご注意いただきたいこと

アフターサービスについて

保証と修理について

○ 修理や点検調整のための分解掃除（オーバーホール）の際は、お買い上げ店、または弊社お客様相談窓口にご依頼ください。
○ 保証期間内に不具合が生じた場合は、必ず保証書を添えてお買い上げ店へお持ちください。
○ 保証内容は保証書に記載したとおりです。
保証書をよくお読みいただき、大切に保管してください。
○ 保証期間終了後については、修理によって機能が維持できる場合には、ご要望により有料修理させていただきます。
○ 保証期間終了後の有料の内装修理・オーバーホールは、コンプリートサービスとなります。コンプリートサービスとは、内装修理・オーバーホール時にケースやメタルバンドに簡単なポリッシュ（表面を整え、つやを出すサービス）を施すものです。

補修用性能部品について

○ この時計の補修用性能部品の保有期間は通常10年を基準としています。
補修用性能部品とは､時計の機能を維持するために必要な修理用部品です。
○ 修理の際、外観の異なる代替部品を使用させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

点検調整のための分解掃除（オーバーホール）について

○ 長くご愛用いただくために、３年～４年に一度程度の点検調整のための分解掃除（オーバーホール）をおすすめします。
○ この時計のムーブメントは、機構の性質上動力を伝達する歯車部分に常に力が加わっています。これらが常に機能するためには、定期的な部品の洗浄、油の交換、精度調整、機能チェック、消耗品の交換などが大切です。特にお買い上げ後３年～４年目の点検調整のための分解掃除（オーバーホール）を行うことが、長く使用するためには重要です。ご使用状況によっては、機械の保油状態が損なわれたり、油の汚れなどによって部品が磨耗し、止まりにいたることがあります。
またパッキンなどの部品の劣化が進み、汗や水分の浸入などで防水性能が損なわれる場合があります。
点検調整のための分解掃除（オーバーホール）は、「純正部品」とご指定の上、お買い上げ店にご依頼ください。その際、パッキンやばね棒の交換もあわせてご依頼ください。
○ 点検調整のための分解掃除（オーバーホール）の際には、ムーブメント交換となる場合もあります。

保証について

取扱説明書にそった正常なご使用により､保証期間内に不具合が生じた場合は､下記の保証規定によって無料で修理・調整いたします。

保証の対象部分

○ 時計本体（ムーブメント・ケース）および金属バンドです。

保証の適用外

（保証期間あるいは保証対象部分であっても、次のような場合には有料になります）

○ 皮革・シリコン・布などのバンドの交換
○ ご使用中に生じるケース、ガラス、バンドなどへの傷・汚れなど
○ 事故または不適切な取扱いによって生じた故障および損傷
○ 火災・水害・地震等の天災地変による故障および損傷
○ 保証書の字句を書き換えられた場合
○ 保証書のご提示がない場合

保証を受ける手続き

○ 不具合が生じた場合は、時計に必ず保証書を添えてご持参の上、お買い上げ店にご依頼ください。
○ ご贈答、転居などによりお買い上げ店での保証が受けられない場合は、弊社お客様相談窓口に保証書を添えてご依頼ください。

その他

○ 修理の際、ケース・文字板・針・ガラス・バンドなどは一部代替品を使用する場合があります。
修理用部品の保有期間はP.36「補修用性能部品について」をご参照ください。
○ 金属バンドなどの調整は、お買い上げ店または弊社お客様相談窓口にご依頼ください。
その他の販売店では有料もしくはお取り扱いいただけない場合があります。
○ 保証は、保証書に明示した期間・条件のもとにおいて、無料修理をお約束するものです。
これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

お手入れについて

日ごろからこまめにお手入れしてください

○ りゅうずを引き出して洗わないでください。
○ 水分や汗、汚れはこまめに柔らかい布でふき取るように心がけてください。
○ 海水につけた後は、必ず真水でよく洗ってからふき取ってください。
その際、直接蛇口から水をかけることは避け、容器に水をためるなどしてから洗ってください。

※「非防水」、「日常生活用防水」の場合は、おやめください。
⇒ キャリバー番号および防水性能ご確認のお願い P.10

りゅうずは時々回してください

○ りゅうずのさびつきを防止するために、時々りゅうずを回してください。
○ ねじロック式りゅうずの場合も同様です。
⇒ りゅうずについて P.17

バンドについて

バンドは直接肌に触れ、汗やほこりで汚れます。そのため、お手入れが悪いとバンドが早く傷んだり、肌のかぶれ・そで口の汚れなどの原因になります。長くお使いになるためには、こまめなお手入れが必要です。

金属バンド

○ ステンレスバンドも水や汗・汚れをそのままにしておくと、さびやすくなります。
○ 手入れが悪いと、かぶれやワイシャツのそで口が黄色や金色に汚れる原因になります。
○ 水や汗・汚れは、早めに柔らかな布でふき取ってください。
○ バンドのすき間の汚れは、水で洗い、柔らかな歯ブラシなどで取り除いてください。
（時計本体は水にぬれないように、台所用ラップなどで保護しておきましょう。）
残った水分は柔らかな布でふき取ってください。
○ チタンバンドでも、ピン類には強度に優れたステンレスが使用されているものがあり、ステンレスからさびが発生することがあります。
○ さびが進行すると、ピンの飛び出しや抜けが発生し、時計を脱落させてしまうことがあります。また、逆に中留が外れなくなることがあります。
○ 万が一、ピンが飛び出している場合は、怪我をするおそれがありますので、ただちに使用をやめて修理をご依頼ください。

皮革バンド

○ 水や汗、直射日光に弱く、色落ちや劣化の原因になります。
○ 水がかかったときや汗をかいた後は、すぐに乾いた布などで、吸い取るように軽くふいてください。
○ 直接日光にあたる場所には放置しないでください。
○ 色の薄いバンドは、汚れが目立ちやすいので、ご使用の際はご注意ください。
○ 時計本体が日常生活用強化防水になっているものでも、アクアフリーバンド以外の皮革バンドは、水泳・水仕事などでのご使用はお控えください。

シリコンバンド

○ 材料の特性上、バンドに汚れがつきやすく、しみこんだりして、変色を生じることがあります。汚れた場合は、ぬれた布やウェットクリーニングティッシュ等ですぐにふきとってください。
○ 他の材料に比べ、亀裂が生じた場合そこから切れてしまう恐れがあります。先の鋭い刃物などで傷つけないよう、ご注意ください。

かぶれやアレルギーについて

バンドによるかぶれは、金属や皮革が原因となるアレルギー反応や、汚れ、もしくはバンドとのすれなどの不快感が原因となる場合など、いろいろな発生原因があります。

バンドサイズのめやすについて

バンドは多少余裕をもたせ、通気性をよくしてご使用ください。
時計を着けた状態で、指一本入る程度が適当です。

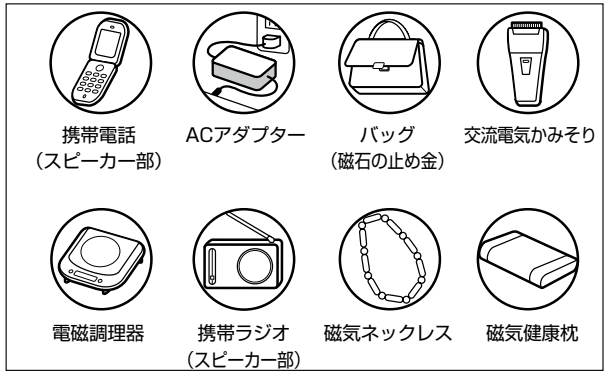
耐磁性能について（磁気の影響）

この時計は、身近にある磁気の影響を受け、時刻が狂ったり止まったりします。

裏ぶた表示	お取扱方法	保証水準
耐磁性能表示なし	磁気製品より5cm以上遠ざける必要があります。（JIS1種）	4,800A/m
	磁気製品より1cm以上遠ざける必要があります。（JIS2種）	16,000A/m
MAGNETIC RESISTANT 40000A/m	日常生活のみならず、特殊作業環境下において磁気製品に1cmまで近づけたとしても、ほとんどの場合性能を維持できます。	40,000A/m
MAGNETIC RESISTANT 80000A/m		80,000A/m

※ A/m（アンペアメーター）とは、磁界の強さを表す国際単位（SI単位）です。

時計に影響を及ぼす身の周りの磁気製品例



磁気を帯びたことが原因で、携帯使用時の精度めやす範囲を超えている場合、磁気の除去および精度の再調整作業は、保証期間にかかわらず有料とさせていただきます。

この時計が磁気の影響を受ける理由

内蔵されているひげぜんまいが、外からの強い磁力の影響を受けます。

ルミブライトについて

お買い上げの時計がルミブライトつきの場合

ルミブライトは、太陽光や照明のあかりを短時間（約10分間：500ルクス以上）で吸収して蓄え、暗い中で長時間（約3時間～ 5時間）発光します。光が当たらなくなってから輝度（明るさ）は、時間の経過とともに弱まります。なお、光を蓄える際の光の強さや光の吸収度合いとルミブライトの面積によって、発光する時間や見え方に差が生じます。

※ 一般的には明るい所から暗い所へ入った場合、人の目はすぐには順応しません。初めはものが見にくいですが、時間の経過と共に見やすくなってきます。（目の暗順応）

※ ルミブライトは、放射能などの有害物質をまったく含んでいない環境・人に安全な蓄光（蓄えた光を放出する）塗料です。

照度のめやすについて

環　境		明るさ（照度）のめやす
太陽光	晴れ	100,000ルクス
	くもり	10,000ルクス
屋内（昼間窓際）	晴れ	3,000ルクス以上
	くもり	1,000 ～ 3,000ルクス
	雨	1,000ルクス以下
照明（白色蛍光灯40Wの下で）	1m	1,000ルクス
	3m	500ルクス（通常室内レベル）
	4m	250ルクス

こんな時には

現象	考えられる原因	このようにしてください
時計が止まった。	ぜんまいが巻かれていない。	ぜんまいを手で巻くか、または数回振れば動き出します。それでも、動かない場合は、お買い上げ店にご相談ください。
時計が一時的に進む／遅れる。	暑いところまたは寒いところに長く置いた。	精度は、常温にもどれば元にもどります。
	磁気を発生するもののそばに置いた。	精度は、元にもどりません。元の精度に戻すためには、脱磁(修理)をする必要があります。お買い上げ店にご相談ください。
	落としたり強くぶつけたり、または激しいスポーツをした。強い振動が加えられた。	精度は、元にもどりません。お買い上げ店にご相談ください。
	3年を越える長期間、分解掃除による点検調整を行っていない。	お買い上げ店にご相談ください。
日付が日中に変わる。	時刻合わせが12時間ずれている。	12時間、針を進めて時刻および日付を合わせ直してください。
ガラスのくもりが消えない。	パッキンの劣化などにより時計内部に水分が入った。	お買い上げ店にご相談ください。

※ その他の現象は、お買い上げ店にご相談ください。

■製品仕様（ムーブメント関係）

機種	9S86、9S85
基本機能（共通）	時針、分針、秒針、日付表示
基本機能（9S86のみ）	24時針、日付連動式時差修正機能
振動数	36,000振動／時間（10振動／秒）
GS規格精度	平均日差※　－3秒～＋5秒
GSスペシャル規格精度	平均日差※　－2秒～＋4秒
駆動方式	ぜんまい巻〈自動巻（手巻つき）〉
持続時間	最大巻上時約55時間以上
使用石数	37石

機種	9S66、9S68、9S65、9S61、9S64
基本機能（共通）	時針、分針、秒針
基本機能（9S66、68、65のみ）	日付表示
基本機能（9S66のみ）	24時針
振動数	28,800振動／時間（8振動／秒）
精度	平均日差※　－3秒～＋5秒
駆動方式	9S66、9S68、9S65、9S61： ぜんまい巻〈自動巻（手巻つき）〉 9S64：ぜんまい巻（手巻）
持続時間	最大巻上時約72時間以上
使用石数	9S66、9S68、9S65：35石 9S61：33石 9S64：24石

機種	9S25
基本機能	時針、分針、秒針、日付表示
振動数	28,800振動／時間（8振動／秒）
精度	平均日差※　－3秒～＋8秒
駆動方式	ぜんまい巻〈自動巻（手巻つき）〉
持続時間	最大巻上時約50時間以上
使用石数	33石

平均日差※：ケース組み込み前のムーブメントを6姿勢で12日間、人工的に管理された環境下に固定して測定した日差の平均値です。

ご注意：ご使用になる条件（携帯時間、温度環境、巻上げ具合等）によっては、上記精度の範囲を超える場合がありますので、実際に携帯使用される場合の精度は一日あたり－1～＋10秒（9S86、9S85の場合は－1～＋8秒、9S25の場合は－5～＋10秒）の範囲を目安としております。

※ 上記の製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

Thank you very much for choosing a Grand Seiko watch.
For proper and safe use of your Grand Seiko watch, please read the instructions carefully in this booklet before using it.

Keep this manual handy for easy reference.

English

Bracelet sizing is available at the retailer from whom the watch was purchased. If you cannot have your watch band sized by the retailer from whom the watch was purchased because you received the watch as a gift, or you moved to a distant place, please contact Grand Seiko international service network mentioned on CERTIFICATE OF GUARANTEE or our website. The service may also be available on a chargeable basis at other retailers, however, some retailers may not undertake the service.

If your watch has a protective film for preventing scratches, make sure to peel it off before using the watch. If the watch is used with the film on it, dirt, sweat, dust, or moisture may be attached to the film and may cause rust.

CONTENTS

■INTRODUCTION -About mechanical watch-……44
・Characteristics of a mechanical watch……45
・For lifelong use of your mechanical watch ……47
■CAUTIONS FOR ACCURACY……50
■HANDLING CAUTIONS ……50
■CHECK THE CALIBER NUMBER AND WATER-RESISTANT LEVEL……52
■CAUTIONS ON WATER RESISTANCE……53
■NAMES OF THE PARTS ……57
■HOW TO USE ……59
・FOR CAL. 9S85, 9S68, 9S65, 9S25 ……60
・FOR CAL. 9S86, 9S66……62
※List of time zone differences in major regions of the world ……68
・FOR CAL. 9S64 ……69
・FOR CAL. 9S61 ……71
■FUNCTIONS OF DIVER'S MODEL ……72
■THE GRAND SEIKO STANDARD……74
・The Grand Seiko Standard Inspection Certificate……77
・Cautions for accuracy of mechanical watch……78
■TO PRESERVE THE QUALITY OF YOUR WATCH ……79
・After-sale service……79
・Guarantee……80
・Daily care ……81
・Band……82
・Magnetic resistance (Magnetic influence)……83
・Lumibrite……84
・Troubleshooting……85
■SPECIFICATIONS (Movement) ……86

■INTRODUCTION -About mechanical watch-

Thank you very much for purchasing the Grand Seiko mechanical watch.

Take hold of your watch softly.
Hear the watch ticking,
tick tock, tick tock, tick tock,
soft and faint, a dignified sound can be heard.

The sound can be called
the crystal of the craftsmen's spirit and skill.
Handpicked parts assembled one by one,
carefully, with craftsmanship,
giving life to a mechanical watch.
This is proven by the sound.

Talking about accuracy,
mechanical watches cannot be compared to
quartz watches, that is for certain.
However, the accuracy of a mechanical watch
is pursued by human hands.
Full of spirit and know-how of craftsmen.

A mechanical watch - complicated, sensitive,
and having a human touch.
We would like to let all of you know
the charm of a mechanical watch, which has no bounds.
So we made this handbook, mainly detailing the accuracy.
Wishing you will have a nice time
with your Grand Seiko for a long, long time.

SEIKO WATCH CORPORATION

Quartz watches and mechanical watches - what is the difference?

We will explain by example

Quartz watches that you have come to be familiar with.
These are just like airplanes, controlled by computers.
A battery, IC, and crystal make quartz watches work accurately, electrically.

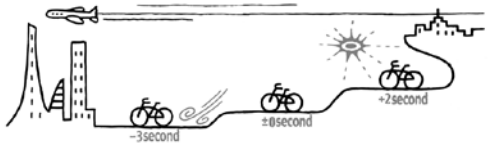
Some loss or gain may occur while the watch is worn.
However, this will be too small to notice in your daily life.

If a quartz watch resembles an airplane,
a mechanical watch is like a bicycle.

All watch parts work together mechanically to make it tick.
Thus, a mechanical watch is easily affected by the outside environment.

If it is hot, the watch tends to lose time.
When power driving the watch becomes short (when the amount the spring is wound is short), accuracy becomes unstable.
If the resting position of the watch is changed, accuracy is also affected.

The rate of loss/gain could be significant that you will notice in your daily life.



The accuracy is shown by the daily rate

The measured loss/gain of the watch per day
This is called the daily rate.

The accuracy of a mechanical watch
is usually shown in this daily rate.

The accuracy of a mechanical watch changes delicately day by day,
depending on the condition in which the watch is used or the outside environment.

Thus,

By only observing loss/gain in one day,
you cannot judge how accurate the watch works.

If you check the average of the daily loss/gain rate,
you can judge the accuracy of the watch.

> In the case of quartz watches, the accuracy is usually shown by the monthly/yearly rate.
> Total losses/gains for a month/year are called the loss/gain rate of quartz watches.

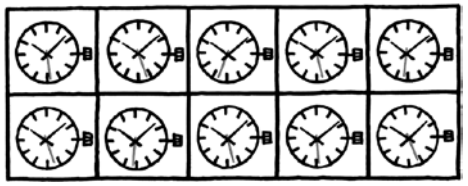
English

Mean daily rate / Normal usage accuracy

The accuracy of a mechanical watch varies depending on many things,
such as the amount the spring is wound by movements of your arm, temperature, or resting position of the watch.

Thus to show the accuracy of a mechanical watch evenly, not depending on the environment,
loss/gain of a mechanical watch is measured
before the inside movements of the watch are put in the case,
under controlled conditions,
with many days of tests.
And the measured rate is called "mean daily rate".

In both the ISO3159 and Grand Seiko Standard,
the standard rate is mean daily rate.
⇒ "THE GRAND SEIKO STANDARD" page 74



This rate is the data measured in an environment that is artificially controlled,
in order to fairly evaluate/show the abilities of mechanical watches without being influenced by environmental changes.
So it is different from "normal usage accuracy"
when you are actually wearing the watch.

The accuracy of a mechanical watch varies delicately day by day, depending on the environment.
This is like a living thing,
one of the charms that a mechanical watch has.

Normal usage accuracy should be from −1 second/day to +10 seconds (−1 to +8 seconds for Cal. 9S86 and 9S85, −5 to +10 seconds for Cal. 9S25) /day. If the average of the daily rates exceeds this level, we would like the responsibility for adjusting it accordingly (The cost of adjusting the watch is free of charge for three years from the date of purchase.)
To adjust the accuracy as accurately as possible, information such as the rate of loss/gain of your watch and how you use it, are very important. Please let us know the following when you ask for adjustment of your watch by our service center.
(1) The average daily loss/gain rates for one week to ten days
Ex. an average of +11 seconds
(2) Approximate hours of wearing the watch in one day in the above period
Ex. Approximately 10 hours
(3) The resting position of the watch while you don't wear it
Ex. Horizontal - Dial up
Vertical - the crown up

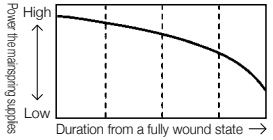
For lifelong use of your mechanical watch rule No.1

Wind the mainspring of your mechanical watch at a fixed time.

As there are rules for everything,
there is a rule for winding the spring.

You have not heard this before?
Please keep it in mind.

The mainspring - the source of energy for a mechanical watch
When it is fully wound, it can supply the most stable energy to every part of the watch movement, and the accuracy of the watch becomes most stable.



Even if your watch is a self-winding type,
when you feel the accuracy is not stable,
shake the watch or turn the crown to wind the mainspring further.
If you work at a desk, etc., and do not move too much,
the spring will not be wound sufficiently.

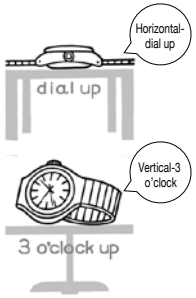
If your watch is a wind-up mechanical type,
turn the crown every day, at a fixed time
to wind the mainspring sufficiently.

To use the watch with better accuracy,
wind the mainspring every day, at a fixed time.
Please keep to this rule as best as possible.

For instance,
You may make it a rule to wind the spring
When you wake up, or at lunchtime.

For lifelong use of your mechanical watch rule No.2

Place your watch correctly, like this.



Half of one day, twenty-four hours,
when you do not wear your watch.
The accuracy while you do not wear the watch is included in "normal usage accuracy".

The mechanical watch that you take off
Which position should the watch be put in?

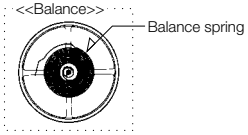
The loss/gain of a mechanical watch
depends on the resting position of the watch.
In one position, the watch tends to gain, in another position, it doesn't.

For instance, while you are sleeping at night,
when you do not wear your watch,
put the watch in various positions for seven to eight hours, such as placing it with its face turned up, or with the crown up,
to find the best resting position for the watch for reducing the loss/gain that occurs while you are wearing your watch.

For lifelong use of your mechanical watch rule No.3

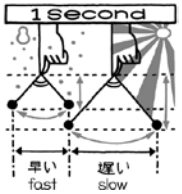
Accuracy will vary depending on the temperature.

A piece of metal of about 0.1 mm, as thin as a hair, is wound.
That is the key that controls the accuracy of all mechanical watches.



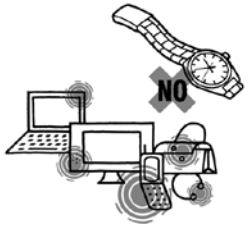
Metals expand and contract depending on the temperature.
This characteristic of all metals also applies to the balance spring.
This affects the accuracy of a mechanical watch.

In other words,
When it is hot, the balance spring expands and the watch tends to lose.
When it is cold, the balance spring contracts and the watch tends to gain.
This is typical.



For lifelong use of your mechanical watch rule No.4

Keep your mechanical watch away from magnetic objects.



After you take off your watch,
do you leave it by your cell phone?
Or put it on a television or next to your PC?
Do you put it in your bag with your cell phone?

Watches do not like magnetism.
They may lose or gain when affected by magnetism.

To make your mechanical watch work more accurately,
it is important not to leave the watch close to magnetic objects for a long time.

In particular, cell phones, televisions and speakers of PCs have strong magnetism.
A magnetic necklace, a clasp of a handbag, magnetic parts of refrigerators,
there are many magnetic objects around us
Please be careful.

For lifelong use of your mechanical watch rule No.5

Do not give your mechanical watch a strong shock.

When you play golf, tennis or baseball.

When you play a sport that gives your arm a strong impact.
Please take off your mechanical watch.

There are reasons for this.

For instance,
at the moment you hit a golf ball with a club,
the impact of the ball against the club is about 1 ton.

The impact is given to your wrist,
and this will affect very small parts inside your mechanical watch.

Sometimes, the impact will deform or break a watch part.
"Good shot" for you becomes "bad shock" for your watch.

For lifelong use of your mechanical watch rule No.6

Overhaul, once every three years

Love your watch, once every three years.
Talk about an overhaul.

In the case of a mechanical watch, there is no need to change your battery.
However,
maintenance of your watch is also necessary.

Once every three years,
please take your watch to our service center for examining and cleaning every part of your watch.

Once you start using it,
your watch never takes a rest.

And in the case of a mechanical watch, power given to its gear is stronger,
compared to a quartz watch.
So parts may wear,
oil may dry or be insufficient in some parts.

Especially,
the first three years after you start using your watch is the period when
each part gets used to one another,
and contacting each other causes additional metal powder.

The first overhaul is
the key to the life of your mechanical watch.

Please keep in mind
an overhaul, once every three years

can be considered
love for your watch.

■CAUTIONS FOR ACCURACY

○ Normal usage accuracy of a mechanical watch varies depending on individual customer's use conditions such as winding state of the mainspring by movement amount of the customer's arm per day, temperature environment, and position (orientation of a watch). Accordingly, the actual normal usage accuracy when the watch is used by a customer may differ from the numerical value of each item specified in the Grand Seiko Standard.

○ The target range of normal usage accuracy when the watch is actually used by a customer is set to –1 to +10 seconds (–1 to +8 seconds for Cal. 9S86 and 9S85, –5 to +10 seconds for Cal. 9S25) per day.
To correctly judge the normal usage accuracy, please use the watch for not only one day, but also approximately one week to 10 days under normal use conditions to check loss or gain of time. If the average value per day exceeds the target range, we will adjust the watch. (Adjustment is provided Free of charge for three years after purchase, then charged thereafter. For more details, please refer to the instruction manual.)

○ The enclosed Grand Seiko Standard Inspection Certificate certifies the values of a movement single unit before assembly in a case which are measured under an artificially controlled environment in the production factory passed the Grand Seiko Standard Inspection.
Should the certificate be lost or after repair or adjustment, it cannot be reissued.

■HANDLING CAUTIONS

⚠WARNING To indicate the risks of serious consequences such as severe injuries unless the following safety regulations are strictly observed.

Immediately stop wearing the watch in the following cases.

○ If the watch body or band becomes edged by corrosion etc.
○ If the pins protrude from the band.
※ Immediately consult the retailer from whom the watch was purchased or Grand Seiko international service network mentioned on CERTIFICATE OF GUARANTEE or our website.

Keep the watch and accessories out of the reach of babies and children.

Care should be taken to prevent a baby or a child accidentally swallowing the accessories. If a baby or child swallows the battery or accessories, immediately consult a doctor, as it will be harmful to the health of the baby or child.

⚠CAUTIONS To indicate the risks of light injuries or material damages unless the following safety regulations are strictly observed.

Avoid wearing or storing the watch in the following places.

○ Places where volatile agents (cosmetics such as polish remover, bug repellent, thinners etc.) are vaporizing
○ Places where the temperature drops below 5 ºC or rises above 35 ºC for a long time
○ Places of high humidity
○ Places affected by strong magnetism or static electricity
○ Dusty places
○ Places affected by strong vibrations

If you observe any allergic symptoms or skin irritation

Stop wearing the watch immediately and consult a specialist such as a dermatologist or an allergist.

Other cautions

○ Replacement of the metal band requires professional knowledge and skill. Please ask the retailer from whom the watch was purchased for replacement of the metal band, as there is a risk of hand or finger injury and fear of losing parts.
○ Do not disassemble or tamper with the watch.
○ Keep the watch out of the reach of babies and children. Extra care should be taken to avoid risks of any injury or allergic rash or itching that may be caused when they touch the watch.
○ If your watch is of the fob or pendant type, the strap or chain attached to the watch may damage your clothes, or injure the hand, neck, or other parts of your body.
○ Please keep in mind that if a watch is taken off and placed down as it is, the case back, the band and the clasp will rub against each other possibly causing scratches on the case back. We recommend placing a soft cloth between the case back, the band and the clasp after taking off your watch.

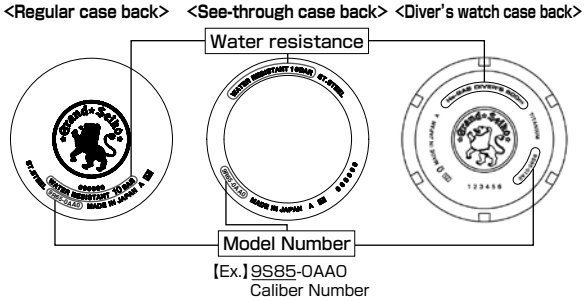
CHECK THE CALIBER NUMBER AND WATER-RESISTANT LEVEL

About the caliber number

The caliber number is a four-digit number that indicates the model of a movement (mechanical part of a watch). The Grand Seiko watch is mounted with an exclusive caliber. The mechanical caliber number starts with "9S", the spring drive caliber number starts with "9R" and the quartz caliber number starts with "9F" and "4J".

How to check the caliber number

The four-digit model number on the case back is the caliber number.



※ The above illustrations are examples and may differ from the case back of the watch you purchased.

Water resistance

Refer to the table below for the description of each degree of water resistant performance of your watch before using.

Indication on the case back	Water resistant performance	Conditions of Use
No indication	Non-water resistance	Avoid drops of water or sweat
WATER RESISTANT	Water resistance for everyday life	The watch withstands accidental contact with water in everyday life ⚠WARNING Not suitable for swimming
WATER RESISTANT 5 BAR	Water resistance for everyday life at 5 barometric pressures	The watch is suitable for swimming.
WATER RESISTANT 10 (20) BAR	Water resistance for everyday life at 10 (20) barometric pressures	The watch is suitable for diving not using an air cylinder.
AIR DIVER'S 200m	The watch can be worn for diving using a compressed air cylinder and can withstand water pressure to a depth of 200 meters.	The watch is suitable for genuine scuba diving use.
He-GAS DIVER'S 600m	The watch can be worn for diving using helium gas and can withstand water pressure to a depth of 600 meters.	The watch is suitable for saturation diving.

CAUTIONS ON WATER RESISTANCE

⚠CAUTIONS

Do not turn or pull out the crown when the watch is wet.

Water may get inside of the watch.

※ If the inner surface of the glass is clouded with condensation or water droplets appear inside of the watch for a long time, the water resistant performance of the watch is deteriorated. Immediately consult the retailer from whom the watch was purchased or Grand Seiko international service network mentioned on CERTIFICATE OF GUARANTEE or our website.

Do not leave moisture, sweat and dirt on the watch for a long time.

Be aware of a risk that a water resistant watch may lessen its water resistant performance because of deterioration of the adhesive on the glass or gasket, or the development of rust on stainless steel.

Do not wear the watch while taking a bath or a sauna.

Steam, soap or some components of a hot spring may accelerate the deterioration of water resistant performance of the watch.

If water-resistant level of your watch is defined as "WATER RESISTANT"

⚠WARNING

Do not use the watch in scuba diving or saturation diving.

The various tightened inspections under simulated harsh environment, which are usually required for watches designed for scuba diving or saturation diving, have not been conducted on the water-resistant watch with the BAR (barometric pressure) display. For diving, use special watches for diving.

⚠CAUTION

Do not pour running water directly from the faucet.

The water pressure of tap water from a faucet is high enough to degrade the water resistant performance of a water resistant watch for everyday life.

If water-resistant level of your watch is defined as “AIR DIVER’S”

⚠WARNING

○ Never use the watch in saturation diving using helium gas.
○ While diving, never operate the watch in any other manner than described in this instruction manual.

⚠CAUTION

Before using the diver's watch, you have to be properly trained in various types of diving and possess the requisite experience and skill to dive safely. When diving, strictly abide by the rules of diving.

If water-resistant level of your watch is defined as “He-GAS DIVER’S”

⚠WARNING

○ This product is compatible with saturation diving. Do not use this product for saturation diving unless you have acquired the requisite experience and techniques for safe saturation diving. thoroughly familiarized yourself with the operation and handing of this product, and inspect all functions of this product prior to each dive.
○ Make sure you carefully check the depth rating indicated on the watch dial or on the case back, and never use the watch underwater deeper than the specified depth.
○ While diving, never operate the watch in any other manner than set forth in the instruction manual.

⚠CAUTION

Before using the diver's watch, you have to be properly trained in various types of diving and possess the requisite experience and skill to dive safely. When diving, strictly abide by the rules of diving.

Precautions for diving

English

○ Before diving

Inspect the following items before diving.

⇒ “NAMES OF THE PARTS” page 57

① The time is correctly set.

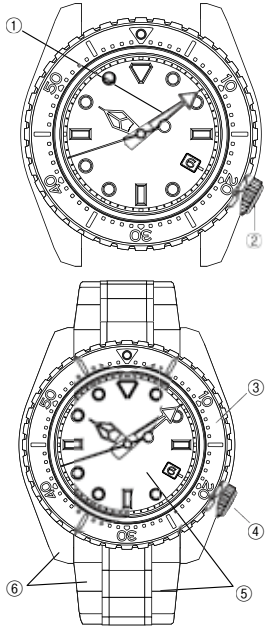
② Turn the crown to wind up the watch.
※ “Screw down crown” → page 59
※ “How to wind the mainspring” → page 60

③ The rotating bezel turns smoothly. (The bezel rotation must not be too loose or too tight.)
⇒ “Unidirectional rotating bezel” page 72.

④ The crown is completely screwed in.
⇒ “Screw down crown” page 59.

⑤ No abnormalities such as flaws or cracks exist on the band or glass.

⑥ The band is reliably fixed with spring bars, buckles or other parts.



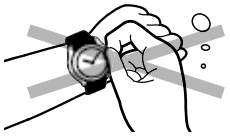
⚠CAUTION

If you notice any abnormalities, contact the retailer from whom the watch was purchased or Grand Seiko international service network mentioned on CERTIFICATE OF GUARANTEE or our website.

○ While diving

Make sure to observe the following instructions when you wear the watch while diving.

Wear the watch within the water depth indicated on the dial.



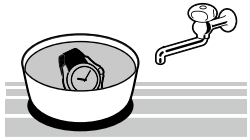
Do not operate the crown or buttons underwater.

Take care not to bump the watch against hard objects such as rocks.

Bezel rotation may become slightly harder underwater, but this is not a malfunction.

○ After diving

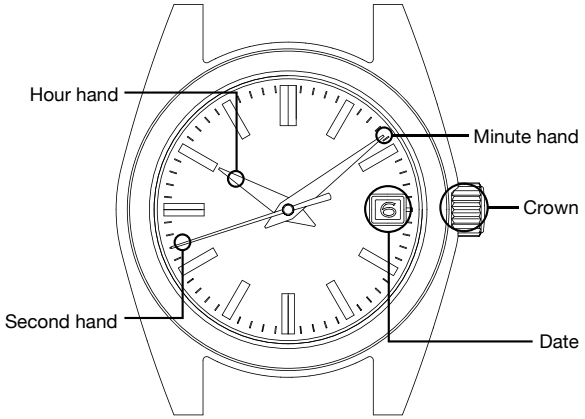
Please follow the care instructions below after diving.



Rinse the watch in fresh water and wipe it thoroughly dry.
Do not pour running water directly from a faucet onto the watch.
Soak the watch in a container filled with water to wash it.

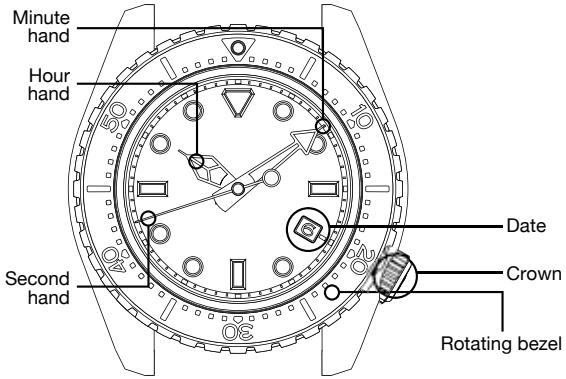
■NAMES OF THE PARTS

9S85, 9S68, 9S65, 9S25 (Regular models)



⇒ "How to set the time and date" page 60.

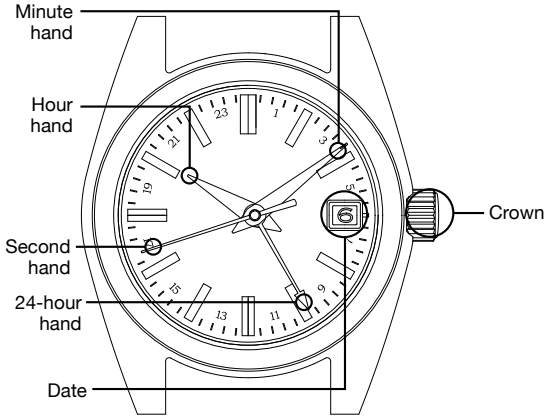
9S85 (Diver's models)



⇒ "How to set the time and date" page 60.
⇒ "FUNCTIONS OF DIVER'S MODEL" page 72.
⇒ "Precautions for diving" page 55.

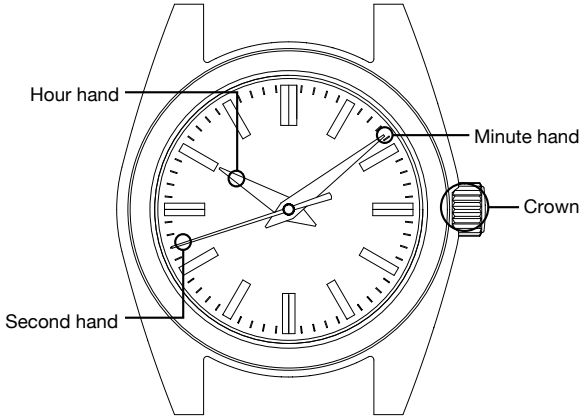
English

9S86, 9S66



⇒ "How to set the time" page 62.

9S64, 9S61



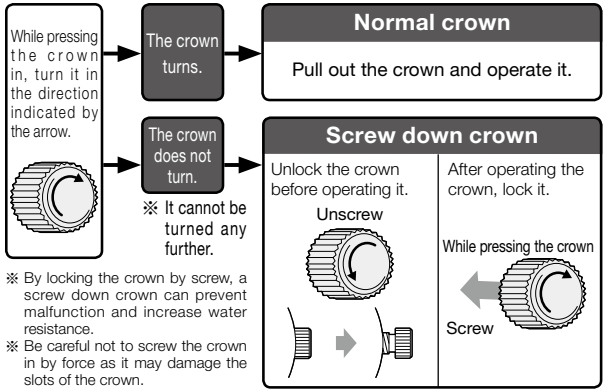
⇒ "How to set the time" page 70.

※ The orientation and design of the display may vary depending on the model.

■HOW TO USE

Crown

There are two types of crowns, a normal crown and a screw down crown.



※ By locking the crown by screw, a screw down crown can prevent malfunction and increase water resistance.
※ Be careful not to screw the crown in by force as it may damage the slots of the crown.

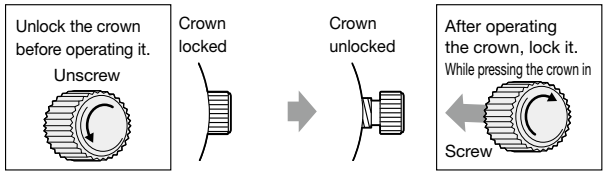
Screw down crown

The screw down crown features a mechanism that can securely lock the crown when they are not being operated in order to prevent any operational errors and to improve its water resistant property.

◯ It is necessary to unlock the screw down crown before operating it.
◯ Once you have finished operating the crown, make sure to relock it.

[To unlock the crown]
Turn the crown counterclockwise (downward) to unscrew it. Now the crown can be operated.

[To lock the crown]
Turn the crown clockwise (upward) while gently pressing it in toward the watch body until it stops.



※ When locking the crown, turn it slowly with care, ensuring that the screw is properly engaged. Be careful not to push it in forcefully, as doing so may damage the screw hole in the case.

HOW TO USE (FOR CAL. 9S85, 9S68, 9S65, 9S25)

How to wind the mainspring

○ This watch is an automatic winding type (with manual winding function).
○ The mainspring can be sufficiently wound automatically by natural movement of the arm while normally worn on the wrist. In addition, it can be wound by turning the crown.
○ A stopped watch can be started by arm movement when it is worn on the wrist, however, before wearing the watch, wind the mainspring sufficiently and set the time and date. When winding the mainspring, turn the crown at the normal position clockwise (12 o'clock direction) slowly. If you turn the crown counterclockwise (6 o'clock direction), it will turn free. The mainspring is sufficiently wound when the crown is turned approximately 45 times (60 times for Cal. 9S68 and 9S65, 30 times for Cal. 9S25). When the mainspring is in the full-winding state, it is designed so that the mainspring slips if it is overwound. Therefore, it is not necessary to worry about breaking the mainspring, however, please refrain from excessive operation.

※ It is recommended that you wear the watch on your wrist more than 10 hours a day to keep the mainspring wound up. If the mainspring is not wound up sufficiently, the watch may lose or gain time. If you do not wear the watch on your wrist, wind the mainspring up sufficiently by turning the crown by hand every day at a fixed time.

⚠CAUTION

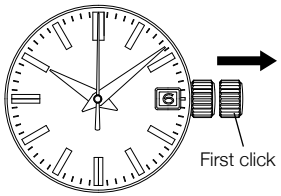
○ Do not set the date between 10:00 p.m. and 1:00 a.m. (between 11:00 p.m. and 1:00 a.m. for Cal. 9S25). If the date is set during this period of time, the date may not change when the next day comes, or this may cause damage.
○ Due to its gear train mechanism, for setting the time of the mechanical watch correctly, the hands should be set back once slightly and then set forward to the correct time.

How to set the time and date

This watch is equipped with the date display function. The date changes once every 24 hours at around 12:00 a.m. Therefore, if the a.m./p.m. is incorrectly set, the date will change around 12:00 p.m.

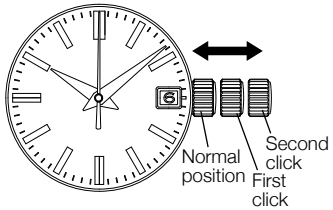
① Pull out the crown to the first click. (If the watch is equipped with the screw down crown, unscrew the crown before pulling it out.)
② The date can be set by turning the crown clockwise (12 o'clock direction). First turn the crown clockwise until the previous day's date from the desired date appears.

【Ex.】 If you want to set the date to ''6,'' set the date to ''5'' by turning the crown clockwise.



③ Pull out the crown to the second click when the second hand is at the 12 o'clock position. (The second hand stops.) Turn the crown counterclockwise to rotate the hands clockwise until the desired date appears. When the date changes, the time is a.m. Further turn the crown to set the current time.

④ Push the crown back into the normal position in accordance with a time signal. The watch starts operating.

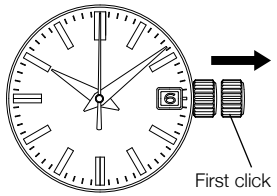


⚠**CAUTION** For models with a screw down crown, remember to screw the crown in.

Date adjustment at the end of the month

It is necessary to adjust the date after February (which has 28 days, 29 days in a leap year) and a 30 day month.

【Ex.】
To adjust the date in the a.m. period on the first day of a month following a 30-day month
On the first day, ''31'' is displayed. Pull out the crown to the first click. Turn the crown clockwise to set the date to ''1'', and push the crown back in to the normal position.



⚠**CAUTION** For models with a screw down crown, remember to screw the crown in.

HOW TO USE (FOR CAL. 9S86, 9S66)

How to wind the mainspring

○ This watch is an automatic winding type (with manual winding function).
○ The mainspring can be sufficiently wound automatically by natural movement of the arm while normally worn on the wrist. In addition, it can be wound by turning the crown.
○ A stopped watch can be started by arm movement when it is worn on the wrist, however, before wearing the watch, wind the mainspring sufficiently and set the time and date. When winding the mainspring, turn the crown at the normal position clockwise (12 o'clock direction) slowly. If you turn the crown counterclockwise (6 o'clock direction), it will turn free. The mainspring is sufficiently wound when the crown is turned approximately 45 times (60 times for Cal. 9S66). When the mainspring is in the full-winding state, it is designed so that the mainspring slips if it is overwound. Therefore, it is not necessary to worry about breaking the mainspring, however, please refrain from excessive operation.

※ It is recommended that you wear the watch on your wrist more than 10 hours a day to keep the mainspring wound up. If the mainspring is not wound up sufficiently, the watch may lose or gain time. If you do not wear the watch on your wrist, wind the mainspring up sufficiently by turning the crown by hand every day at a fixed time.

How to set the time and date

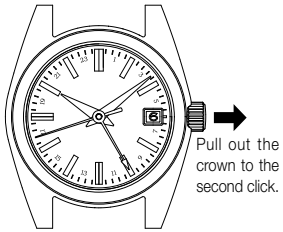
○ To set the time and date, set the 24-hour hand and minute hand first, and then set the hour hand and date.
○ When setting the time, make sure that the mainspring is sufficiently wound.

How to set the time

① Make sure that the mainspring is sufficiently wound and the watch is working.
※ When setting the date and time, ensure that the watch is working.

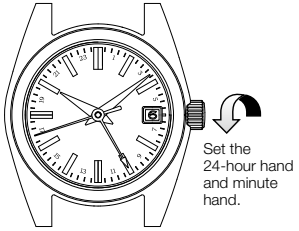
② Unlock the crown.
⇒ "Screw down crown" page 59.

③ Pull out the crown to the second click when the small second hand is pointing at the " 0 " second position. The small second hand will stop on the spot.

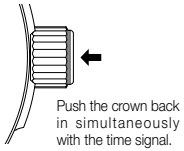


English

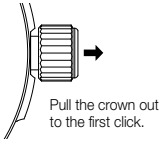
④ Turn the crown counterclockwise to rotate the 24-hour hand and minute hand clockwise and set them to the current time. While doing so, set the minute hand a few minutes behind the correct time, and then slowly advance it to the desired time.
※ Only the 24-hour and minute hands are to be set first. Even if the hour hand is indicating incorrect time, or the date may be altered depending on the position of the hour hand, it is not necessary to make an adjustment at this stage.



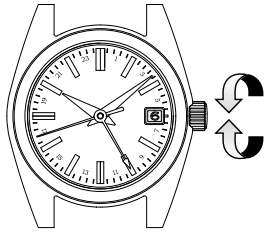
⑤ Push the crown back in simultaneously with the time signal.
※ The setting of the 24-hour, minute and small second hands to the current time is now completed.



⑥ To move on to the hour hand and date setting, pull the crown out to the first click.

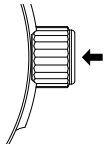


⑦ Turn the crown to set the hour hand. While turning the crown, the moment the date changes is midnight. When setting the hour hand, be sure that AM/PM is set correctly. Set the date also at this point if necessary.
※ The crown can be turned in either direction to set the date, however, it is recommended to turn the crown in the direction which enables you to set the date with a smaller adjustment.



※ Turn the crown slowly, checking that the hour hand moves in one-hour increments.
※ When setting the hour hand, the other hands may move slightly. However, this is not a malfunction.

⑧ Push the crown back in to complete the time setting. Relock the crown.
⇒ "Screw down crown" page 59.



How to set the date

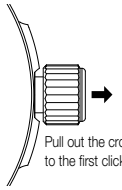
Two full rotations of the hour hand will change the date for one day.
The date advances one day by turning the hour hand two full rotations clockwise (for 24 hours), while the date is set back one day by turning the hour hand two full rotations counterclockwise.

※ Manual date adjustment is required on the first day after a month that has less than 31 days: February, April, June, September and November.

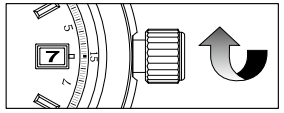
① Make sure that the mainspring is sufficiently wound and the watch is working.
※ When setting the date and time, ensure that the watch is working.

② Unlock the crown.
⇒ "Screw down crown" page 59.

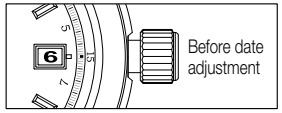
③ Pull out the crown to the first click.


Pull out the crown to the first click.

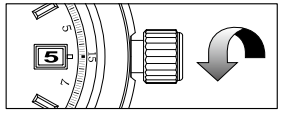
④ Each time the hour hand makes two full rotations by turning the crown, the date is adjusted one day. While turning the crown, the moment the date changes is midnight. When setting the hour hand, be sure that a.m./p.m. is set correctly.



Turning the crown clockwise (upward):
Each time the hour hand makes two full rotations, the date is advanced one day.



※ The crown can be turned in either direction to set the date, however, it is recommended to turn the crown in the direction which enables you to set the date with a smaller adjustment.
※ Turn the crown slowly.
※ When setting the hour hand, the other hands may move slightly. However, this is not a malfunction.



Turning the crown counterclockwise (downward):
Each time the hour hand makes two full rotations, the date is set back one day.

⑤ Upon completion of setting, make sure that the time indicated is correct, and then push the crown back in. The date setting is now completed.
Relock the crown.
⇒ "Screw down crown" page 59.

※ The date is designed to work in conjunction with the movement of the hour hand, therefore, incorrect setting of a.m./p.m. will cause the date to change at noon.
※ The crown can be turned in either direction to set the date, however, it is recommended to turn the crown in the direction which enables you to set the date with a smaller adjustment.
※ Turn the crown slowly, checking that the hour hand moves in one-hour increments.
※ When setting the hour hand, the other hands may move slightly. However, this is not a malfunction.

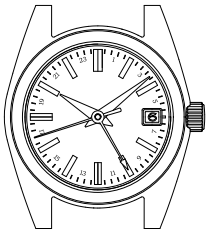
English

How to use the 24-hour hand

This watch has two different types of 24-hour hand usage.

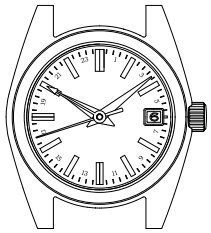
<Type 1> 24-hour hand as an a.m./p.m. indicator
Simply using the 24-hour hand to show the 24-hour time as an a.m./p.m. indicator. (This is the standard usage type for the 24-hour hand.)

Both the hour hand and the 24-hour hand are indicating the Japan time 10:00 a.m.



<Type 2> 24-hour hand as a dual time indicator
Using the time difference adjustment function, set the 24-hour hand to indicate a time different from the time that the hour and minute hand indicate, which is of a place in a different time zone area with at least one hour of time difference from where you are.

Hour hand: Japan time 10:00 a.m.
24-hour hand: New York time 8:00 p.m.



Time difference adjustment function

For example, while traveling abroad and staying in a place with a different time from where you live, you can conveniently set the watch to indicate the local time in the different time zone area without stopping the watch.
The hour hand indicates the time of the place where you currently are, while the 24-hour hand indicates the time of the place of origin.
The date works in conjunction with the movement of the hour hand. If the time difference is correctly adjusted, the watch displays the correct date of the place where you are staying.

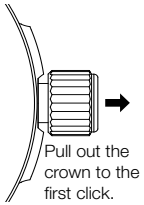
How to use the time difference adjustment function

① Make sure that the mainspring is sufficiently wound and the watch is working.

※ When setting the hour hand to use the time difference adjustment function, ensure that the watch is working.

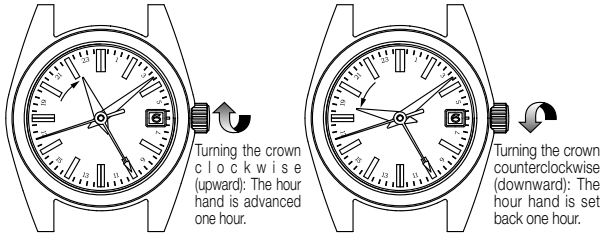
② Unlock the crown.
⇒ "Screw down crown" page 59.

③ Pull out the crown to the first click.



④ Turn the crown to set the hour hand to indicate the time of the place where you are staying. Make sure that a.m./p.m. and date are correctly set.

※ The date is designed to work in conjunction with the movement of the hour hand, therefore, incorrect setting of a.m./p.m. will cause the date to change at noon.
⇒ "List of time zone differences in major regions of the world" page 68.



※ The crown can be turned in either direction to set the time, however, it is recommended to turn the crown in the direction which enables you to set the date with a smaller adjustment.
※ Turn the crown slowly, checking that the hour hand moves in one-hour increments.
※ While turning the crown, the moment the date changes is midnight.
※ When setting the hour hand, the other hands may move slightly. However, this is not a malfunction.

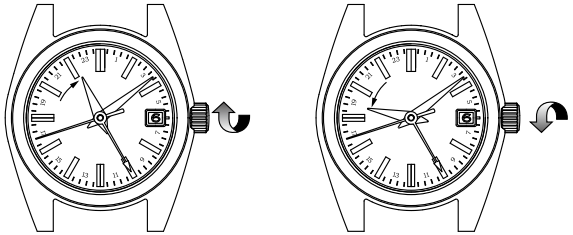
⑤ Upon completion of setting, make sure that the time indicated is correct, and then push the crown back in. The setting procedure is now completed. Relock the crown.
⇒ "Screw down crown" page 59.

※ If you set the time during any time between 9:00 p.m. and 1:00 a.m., temporarily set the hour hand back to 8:00 p.m., and then set the time.

English

Selectable display mode

With the time difference adjustment function, the watch features a dual time display which shows time in two different time zones. It offers two display modes which you can select to suit your needs and preference.



【Ex.1】
Hour hand and date: Area A (Japan)
24-hour hand: Area B (New York)

【Ex.2】
Hour hand and date: Area B (New York)
24-hour hand: Area A (Japan)

Set the 24-hour hand first, and then set the hour hand.

List of time zone differences in major regions of the world

Names of the cities	UTC ± (Hours)	JST ± (Hours)	Other cities in the same region
Tokyo	+9:00	±0:00	Seoul
Beijin	+8:00	-1:00	Hong Kong, Manila, Singapore
Bangkok	+7:00	-2:00	Jakarta
Dacca	+6:00	-3:00	
Karachi	+5:00	-4:00	Tashkent
Dubai	+4:00	-5:00	
Jeddah	+3:00	-6:00	Nairobi, Mecca
Cairo	+2:00	-7:00	★Athens
★Paris	+1:00	-8:00	★Rome, ★Berlin, ★Madrid
★London	±0:00	-9:00	★Casablanca
★Azores	-1:00	-10:00	
★Rio de Janeiro	-3:00	-12:00	
Santo Domingo	-4:00	-13:00	
★New York	-5:00	-14:00	★Montreal
★Chicago	-6:00	-15:00	★Mexico City
★Denver	-7:00	-16:00	
★Los Angels	-8:00	-17:00	★San Francisco
★Anchorage	-9:00	-18:00	
Honolulu	-10:00	-19:00	
Midway Island	-11:00	-20:00	
★Wellington	+12:00	+3:00	Fiji
Nouméa	+11:00	+2:00	
★Sydney	+10:00	+1:00	Guam

※ UTC = Coordinated Universal Time / JST = Japan Standard Time
※ Regions marked with ★ use daylight saving time
※ The time zone differences and use of daylight saving time in each city are based on data as of January, 2018. These are subject to change according to the governments of the respective countries or regions.

HOW TO USE (FOR CAL. 9S64)

How to wind the mainspring

○ This watch is a manual winding type.
○ In order to wind it up completely, please refer to the following table ;

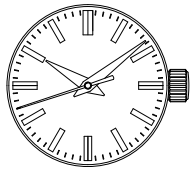
In case the watch is supposed to be wound up every day.	About 20 turns of the crown will wind up the watch fully.
In case the watch was not wound up more than three days.	About 60 turns of the crown will wind up the watch fully.

○ From the state of the mainspring being sufficiently wound, it continuously operates for approximately 72 hours or more.
○ If the mainspring is not wound up sufficiently, the watch may lose or gain time.
To attain a high accuracy, we suggest that the mainspring is wound up fully once a day at a fixed time.

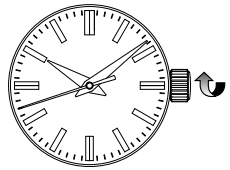
Generally speaking, the crown of the manual winding mechanical watch cannot be turned further when it is wound up fully. However, the crown of CAL. 9S64 can be turned endlessly even after the watch is fully wound up. If you keep turning the crown, that gives no effect to winding, but the watch is so designed as to make the winding a little tighter and not to damage the watch. However, please refrain from excessive operation.

※ When the watch is used from a state in which the mainspring is unwound to a stop, it does not move immediately even if the mainspring is wound with the winding crown. This is because of the mechanical watch's feature that the mainspring torque (force) is weak at the beginning of mainspring winding. The second hand starts moving when the mainspring is wound to reach a certain degree of torque strength, while the watch can be made to move advance by shaking it to rotate the balance wheel forcibly.

Do not pull out the crown.
(If the watch is equipped with the screw down crown, unscrew the crown before pulling it out.)



Slowly turn the crown clockwise (12 o'clock direction) to wind the mainspring.

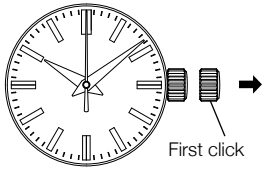


⚠CAUTION For models with a screw down crown, remember to screw the crown in.

How to set the time

① Pull out the crown when the second hand is at the 12 o'clock position.
(The second hand stops.)
Turn the crown to set the current time.

② Push the crown back in to the normal position in accordance with a time signal.
The watch starts operating.



HOW TO USE (FOR CAL. 9S61)

How to wind the mainspring

○ This watch is an automatic winding type (with manual winding function).
○ The mainspring can be sufficiently wound automatically by natural movement of the arm while normally worn on the wrist. In addition, it can be wound by turning the crown.
○ A stopped watch can be started by arm movement when it is worn on the wrist, however, before wearing the watch, wind the mainspring sufficiently and set the time and date. When winding the mainspring, turn the crown at the normal position clockwise (12 o'clock direction) slowly. If you turn the crown counterclockwise (6 o'clock direction), it will turn free. The mainspring is sufficiently wound when the crown is turned approximately 60 times. When the mainspring is in the full-winding state, it is designed so that the mainspring slips if it is overwound. Therefore, it is not necessary to worry about breaking the mainspring, however, please refrain from excessive operation.

※ It is recommended that you wear the watch on your wrist more than 10 hours a day to keep the mainspring wound up. If the mainspring is not wound up sufficiently, the watch may lose or gain time. If you do not wear the watch on your wrist, wind the mainspring up sufficiently by turning the crown by hand every day at a fixed time.

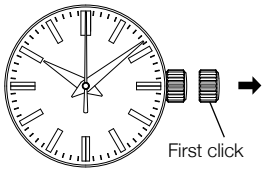
⚠CAUTION

○ For models with a screw down crown, remember to screw the crown in.
○ Due to its gear train mechanism, for setting the time of the mechanical watch correctly, the hands should be set back once slightly and then set forward to the correct time.

How to set the time

① Pull out the crown when the second hand is at the 12 o'clock position.
(The second hand stops.)
Turn the crown to set the current time.

② Push the crown back in to the normal position in accordance with a time signal.
The watch starts operating.



■FUNCTIONS OF DIVER'S MODEL

Unidirectional rotating bezel

By using the rotating bezel, you can measure the elapsed time since the start of an event or an activity such as diving.

This watch has a unidirectional rotating bezel. As the evaluation of the remaining air in your cylinder is based on the information of the elapsed time of the dive, the rotating bezels for a diver's watch is designed to rotate only counterclockwise, so that the watch is prevented from displaying the elapsed time shorter than it actually is.

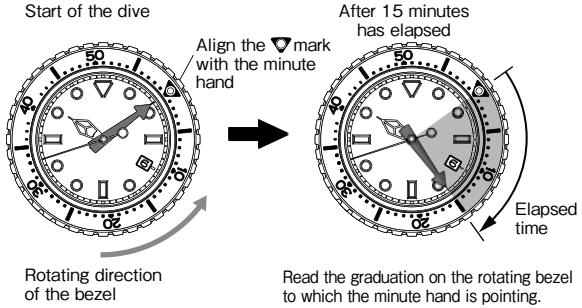
⚠CAUTION Make sure that you check the correct remaining amount of air in your cylinder before diving. Use the display of the elapsed time by the rotating bezel only as a guide during diving.

How to use the rotating bezel

① At the start of the activity, for which you want to measure the elapsed time (for example, when you start diving), rotate the bezel so that the ▽ mark on the bezel is aligned with the minute hand.

② Read the graduation on the rotating bezel to which the minute hand is pointing.

【Ex.】When you start diving at 10:10.



Slide adjuster

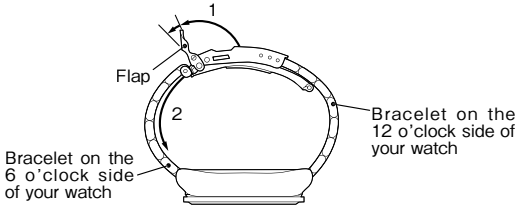
If your watch has a metal bracelet equipped with a slide adjuster mechanism, you can easily adjust the bracelet length by yourself. This is very useful when you wear the watch over a wetsuit or a heavy winter clothing.

English

How to use the slide adjuster

① Lift up the flap approximately 90° and press it down further approximately 20°, and hold it there.
※ You may feel slight resistance, but doing this requires only a light force. Please do not push the flap down forcibly.

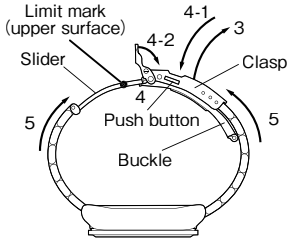
② Lightly pull the bracelet on the 6 o'clock side of the watch along the curved line of the bracelet.
※ Again, doing this requires only a light force. Please do not pull the bracelet forcibly.
※ The slider can be pulled out approximately 30 mm. Be careful not to pull it out beyond the limit mark inscribed on it.



③ Holding down the push button, lift up the clasp to release the buckle, and strap the watch on your wrist.

④ Close the clasp first and then, the flap.

⑤ With the hand which is not wearing the watch, adjust the length of the slider so that the watch fits well around your wrist.



■THE GRAND SEIKO STANDARD

Your Grand Seiko watch is built to the very highest standards to ensure that it keeps time as accurately as possible. In this section, we define the Grand Seiko Standard, what it means and how your watch is tested against it.
The "Grand Seiko Standard" is our own accuracy standard. Your watch has been tested individually and has met this standard. All Grand Seiko calibers are tested in the same way and for the same period but there are two standards, one for Grand Seiko men's watches and another for Caliber 9S25 which is used in Grand Seiko's women's watches. This is because the smaller size of Caliber 9S25 results in a different level of precision.
The movement in your Grand Seiko watch has been tested in our facilities for a period of 17 days, in six different positions and at three different temperatures. It has achieved or surpassed the standards of accuracy shown on page 75, with the accuracy being defined as a gain or loss per day (the "mean daily rate").

We specify "target values" for actual use and these are -1 second to +10 seconds for all calibers except 9S85 and 9S86 (-1 to + 8) and -5 to +10 for 9S25. To judge the precision of your watch against these values, please measure the gain or loss over a week to ten days, and not just for one day, and in normal conditions. If the mean daily rate is outside these levels, we will adjust the watch free of charge within three years of purchase. After that period, such adjustments will be chargeable. Equally, the adjustment will be chargeable if the watch has been subject to any of the conditions below.

- ○ The watch has been used in ways that are not in line with the recommendations in this booklet, such as allowing it to be magnetized.
- ○ It has been opened or tampered with by anyone other than a Grand Seiko repair center.
- ○ It has been damaged as a result of a natural disaster such as a flood, fire or earthquake.
- ○ Guaranteed conditions have been altered.

The Grand Seiko Special Standard

The Grand Seiko Special Standard is a precision standard even higher than the Grand Seiko Standard.
Watches that meet this standard are designated by the word "Special" printed on the dial.

The Grand Seiko Standard defined

Item	Unit	Standard	Cal. 9S25	Special Standard
Mean daily rate in six positions	Second/day	–3.0 ～ +5.0	–3.0 ～ +8.0	–2.0 ～ +4.0
Mean variation of daily rate	Second/day	Less than 1.8	Less than 3.2	Less than 1.6
Maximum daily rate between two consecutive daily rates in the same position	Second/day	Less than 4.0	Less than 6.0	Less than 3.0
Variation of rate between positions horizontal and vertical	Second/day	–6.0 ～ +8.0	–8.0 ～ +10.0	–5.0 ～ +7.0
Maximum daily rate between mean daily rate and any individual rate	Second/day	Less than 8.0	Less than 13.0	Less than 7.0
Variation of daily rate per 1℃ between 8℃ and 38℃	Second/day/℃	–0.5 ～ +0.5	–0.6 ～ +0.6	–0.3 ～ +0.3
Variation of daily rate per 1℃ between 23℃ and 38℃	Second/day/℃	–0.5 ～ +0.5	–0.6 ～ +0.6	–0.3 ～ +0.3
Rate-resumption	Second/day	–5.0 ～ +5.0	–6.0 ～ +6.0	4.0
Number of positions in inspection		6 positions		
Condition of temperature in inspection		8, 23, 38℃		
Length of tests		17 days		

English

Description of Grand Seiko Standard Terminology

Item	Meaning
Position in inspection	Five orientations are specified by the International Standard ISO3159 so as to carry out various kinds of tests for time keeping. In addition thereto, in the GS inspection, 12 o'clock Up position in the state where a watch taken off the wrist is placed, is added, six orientations are specified. (Dial Up, Dial Down, 12 o'clock Up, 3 o'clock Up, 6 o'clock Up, and 9 o'clock Up)
Mean daily rate	Mean value of a total of 12 daily rates measured in six different positions, respectively, for two days. This is a target value indicating basic gain/loss per day of a watch, however, it is required to comprehensively judge the actual accuracy performance in consideration of other items.
Mean variation of daily rate	Mean value of a total of six variations of daily rates between the first day and second day when measured in six different positions for two days each. It indicates the degree which daily accuracy stabilizes in each position.
Maximum daily rate between two consecutive daily rates in the same position	Maximum value of a total of six variations of daily rates between the first day and second day when measured in six different positions for two days each. It indicates the degree which accuracy per day changes at maximum according to positions.
Variation of rate between positions horizontal and vertical	Indicates gain/loss in two positions at which a watch is most frequently used in daily life. It is a difference between mean daily rates for two days when a watch is placed in the dial Up position and mean daily rates for two days when a watch is placed in the 6 o'clock Up position.
Maximum daily rate between mean daily rate and any individual rate	Maximum difference value between daily rates for 12 days in the test initial stage and mean daily rates. It indicates the degree at which the daily rate varies according to the manner for placing a watch.
Variation of daily rate per 1℃ between 8℃ and 38℃	Variation in daily rates per 1℃ between 38℃ and 8℃ in the same position (Dial Up position). It indicates gain/loss in the temperature environment (taken-off state from the wrist) where a watch is used.
Variation of daily rate per 1℃ between 23℃ and 38℃	Variation of daily rates per 1℃ between 38℃ and 23℃ in the same position (Dial Up position). It indicates gain/loss in the temperature environment (worn state of the wrist) where a watch is used.
Rate-resumption	Value obtained by subtracting mean daily rates of initial two days from daily rate of the last inspection day. It indicates the degree at which daily rate stabilizes after usage for a predetermined period.

The Grand Seiko Standard Inspection Certificate

- This certificate accompanies your watch. It shows the precision values achieved by the movement before the watch was cased and that the movement met the Grand Seiko Standard. The precision tests were conducted in an artificially controlled environment in our facility. The certificate shows the caliber number, the movement's individual number and the case's individual number.
- It is important to note that, in actual use, the precision of all mechanical watches varies according to changes in ambient temperature, the position of the watch and the extent to which the mainspring is wound. As a result, the precision of your watch in actual use may show variations from the Grand Seiko Standard.

Your Grand Seiko Inspection Certificate is unique and cannot be replaced or reissued if lost or after maintenance or adjustment.

Cautions for accuracy of mechanical watch

Mechanical watches have a mechanism that is moved by power generated when the mainspring is unwound, and small metal parts physically work together to control the accuracy. Fragile metal parts of a mechanical watch are easily influenced by external environment such as temperature, gravity, and shock. Also, conditions of use such as normal usage time and winding state of the mainspring can, influence the gain/loss of the watch.

① Accuracy of mechanical watch is "mean daily rate."

Accuracy of the quartz watch is indicated monthly or annually such as a monthly rate of ±15 seconds or annual rate of ±10 seconds. This indicates the degree of total difference in accuracy when the quartz watch is continuously used for a month or a year. To the contrary, accuracy of the mechanical watch is normally indicated as a "mean daily rate." Accuracy of the mechanical watch slightly varies each day as it is influenced by various conditions of use, and it is normally unstable. Then it is required to judge whether the accuracy is satisfactory or not by checking the mean values in the case of use for a week to ten days, but not for only one day. For normal usage accuracy of Grand Seiko mechanical watch, -1 to +10 seconds (+8 seconds for Cal. 9S86 and 9S85, –5 to +10 seconds for Cal. 9S25) per day are specified as target values. If the mean value exceeds the abovementioned target value in the normal usage condition when the watch is used for a week to ten days, we will adjust it.

∗Adjustment is provided free of charge within three years after purchase. After the three-year period, adjustments are charged. However, please note that the parts that are age-deteriorated due to long duration of use may not be adjusted to your desired accuracy. ⇒For details, refer to pages 74 and 79.

② Factor influencing accuracy -1: Wound amount of the mainspring

In order to use the mechanical watch at better accuracies, it is required to supply a constant strong energy wherever possible to respective parts. In the state where the mainspring is fully wound, accuracy is stable, however, when the mainspring is unwound to weaken energy to be supplied, the parts controlling accuracy tends to be externally influenced, and accuracy becomes unstable. In order to use a mechanical watch at a steady accuracy, it is recommended to use it in a condition where the mainspring is sufficiently wound.

③ Factor influencing accuracy -2: Temperature influence

Mechanical watch parts are metal which slightly elongate and contract by change in temperature, and this influences accuracy. Normally, under high temperatures, it tends to lose time, and under low temperatures, it tends to gain time.

④ Factor influencing accuracy -3: Difference by position (orientation of a watch)

Parts related to accuracy of a mechanical watch are also influenced by the earth's gravity. For example, gain or loss differs when a watch is horizontally placed and when it is vertically placed in the 12 o'clock up position. When the watch is not worn on the wrist, accuracy errors that occur while wearing can also be compensated to some extent according to the position. Try to place it in various positions to find the position appropriate to your watch.

■TO PRESERVE THE QUALITY OF YOUR WATCH

After-sale service

Notes on guarantee and repair

○ Contact the retailer from whom the watch was purchased or Grand Seiko international service network mentioned on CERTIFICATE OF GUARANTEE or our website repair or overhaul.
○ Within the guarantee period, present the certificate of guarantee to receive repair services.
○ Guarantee coverage is provided in the certificate of guarantee. Read carefully and retain it.
○ For repair services after the guarantee period has expired, if the functions of the watch can be restored by repair work, we will undertake repair services upon request and payment.

Replacement parts

○ Please keep in mind that if original parts are not available, they may be replaced with substitutes whose outward appearance may differ from the originals.

Inspection and adjustment by disassembly and cleaning (overhaul)

○ Periodic inspection and adjustment by disassembly and cleaning (overhaul) is recommended approximately once every 3 to 4 years in order to maintain optimal performance of the watch for a long time.
○ The movement of this watch has a structure that consistent pressure is applied on its power-transmitting wheels. To ensure these parts work together properly, periodic inspection including cleaning of parts and movement, oiling, adjustment of accuracy, functional check and replacement of worn parts is needed. Inspection and adjustment by disassembly and cleaning (overhaul) within 3 to 4 years from the date of purchase is highly recommended for long-time use of your watch. According to use conditions, the oil retaining condition of your watch mechanical parts may deteriorate, abrasion of the parts may occur due to contamination of oil, which may ultimately lead the watch to stop. As the parts such as the gasket may deteriorate, water-resistant performance may be impaired due to intrusion of perspiration and moisture. Please contact the retailer from whom the watch was purchased for inspection and adjustment by disassembly and cleaning (overhaul). For replacement of parts, please specify “GRAND SEIKO GENUINE PARTS”. When asking for inspection and adjustment by disassembly and cleaning (overhaul), make sure that the gasket and push pin are also replaced with new ones.
○ When your watch is inspected and adjusted by disassembly and cleaning (overhauled), the movement of your watch may be replaced.

Guarantee

Within the guarantee period, we guarantee free repair/adjustment service against any defects according to the following guarantee regulations, provided that the watch was properly used as directed in this instruction booklet.

Guarantee coverage

○ The watch body (movement, case) and metallic band.

Exceptions from guarantee

In following cases, repair/adjustment services will be provided at cost even within the guarantee period or under guarantee coverage.

○ Exchange of leather, Silicone, or fabric band.
○ Troubles or damage to the case, glass, or band, caused by accidents or improper usage.
○ Scratches or grime caused by use.
○ Troubles and damage caused by acts of God, natural disasters including fire, floods or earthquakes.
○ Text in certificate has been altered.
○ No certificate is presented.

Procedure to claim free repair services

○ For any defects under guarantee, submit the watch together with the attached certificate of guarantee to the retailer from whom the watch was purchased.
○ In the case where you cannot accept the guarantee from the retailer from whom the watch was purchased due to gift-giving or relocation, etc., ask Grand Seiko international service network mentioned on CERTIFICATE OF GUARANTEE or our website by attaching the certificate without fail.

Others

○ For the watch case, dial plate, hands, glass, band etc., some alternative parts may be used for repair if necessary. Refer to page 79 of this booklet for retention period of the parts.
○ For length adjustment service of metallic band, ask the retailer from whom the watch was purchased or Grand Seiko international service network mentioned on CERTIFICATE OF GUARANTEE or our website. Other retailers may undertake the service on a chargeable basis or may not undertake the service.
○ Free repair services are guaranteed only under the period and conditions specified in the certificate of guarantee. It dose not affect specific legal rights of a consumer.

Daily care

The watch requires good daily care

○ Do not wash the watch when its crown is at the extended position.
○ Wipe away moisture, sweat or dirt with a soft cloth.
○ After soaking the watch in seawater, be sure to wash the watch in clean pure water and wipe it dry carefully.

※ If your watch is rated as “non-water resistant” or “water resistant for daily use”, do not wash the watch.
⇒ “CHECK THE CALIBER NUMBER AND WATER-RESISTANT LEVEL” page 52.

Turn the crown from time to time

○ In order to prevent corrosion of the crown, turn the crown from time to time.
○ The same practice should be applied to a screw down crown.
⇒ “Crown” page 59.

Band

The band touches the skin directly and becomes dirty from sweat or dust. Therefore, lack of care may accelerate deterioration of the band or cause skin irritation or stain on the sleeve edge. The watch requires a lot of attention for long usage.

Metallic band

- ○ Moisture, sweat or soil will cause rust even on a stainless steel band if they are left for a long time.
- ○ Lack of care may cause a yellowish or gold stain on the lower sleeve edge of shirts.
- ○ Wipe off moisture, sweat or soil with a soft cloth as soon as possible.
- ○ To clean the soil around the joint gaps of the band, wipe it out in water and then brush it off with a soft toothbrush (Protect the watch body from water splashes by wrapping it up in plastic wrap etc.).
- ○ Because some titanium bracelets use pins made of stainless steel, which has outstanding strength, rust may form in the stainless steel parts.
- ○ If rust advances, pins may poke out or drop out, and the watch case may fall off the bracelet, or the clasp may not open.
- ○ If a pin is poking out, personal injury may result. In such a case, refrain from using the watch and request repair.

Leather band

- ○ A leather band is susceptible to discoloration and deterioration from moisture, sweat and direct sunlight.
- ○ Wipe off moisture and sweat as soon as possible by gently blotting them up with a dry cloth.
- ○ Do not expose the watch to direct sunlight for a long time.
- ○ Please take care when wearing a watch with light-colored band, as dirt is likely to show up.
- ○ Refrain from wearing a leather band watch other than Aqua Free bands while bathing, swimming, and when working with water even if the watch itself is water-resistant enforced for daily use.

Silicone band

- ○ As for material characteristics, the band is easily dirtied, and may be stained and discolored. Wipe off dirt with a wet cloth or cleaning tissue.
- ○ Unlike bands of other materials, cracks may result in the band being cut. Take care not to damage the band with an edged tool.

Notes on skin irritation and allergy

Skin irritation caused by a band has various reasons such as allergy to metals or leathers, or skin reactions against friction on dust or the band itself.

Notes on the length of the band

Adjust the band to allow a little clearance with your wrist to ensure proper airflow. When wearing the watch, leave enough room to insert a finger between the band and your wrist.

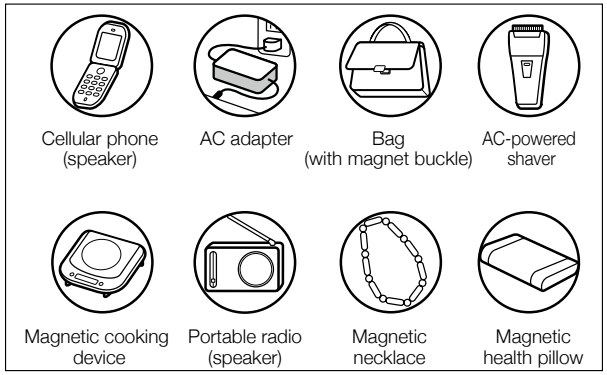
Magnetic resistance (Magnetic influence)

Affected by nearby magnetism, a watch may temporarily gain or lose time or stop operating.

Indication on the case back	Condition of use	Certified level
No indication	Keep the watch more than 5 cm away from magnetic products.	4,800A/m
	Keep the watch more than 1 cm away from magnetic products.	16,000A/m
MAGNETIC RESISTANT 40000A/m	The watch can maintain its performance in most cases where it is brought close to (at least 1cm spaced from) magnetic products not only in normal daily life circumstances but also in a special work environments.	40,000A/m
MAGNETIC RESISTANT 80000A/m		80,000A/m

※ A/m (ampere meter) is the International unit (SI unit) for indicating the magnetic field.

Examples of common magnetic products that may affect watches



If the watch becomes magnetized and its accuracy deteriorates to an extent exceeding the specified rate under normal use, the watch may need to be demagnetized. In this case, you will be charged for demagnetization and accuracy readjustment even if it happens within the guarantee period.

The reason why watch is affected by magnetism.

The built-in balance spring is provided with a magnet, which may be influenced by a strong external magnetic field.

English

Lumibrite

If your watch has Lumibrite

Lumibrite is a luminous paint that is completely harmless to human beings and the natural environment; containing no noxious materials such as radioactive substance. Lumibrite is a newly-developed luminous paint that absorbs light energy of the sunlight and lighting apparatus in a short time and stores it to emit light in the dark. For example, if exposed to a light of more than 500 lux for approximately 10 minutes, Lumibrite can emit light for 3 to 5 hours.
Please note, however, Lumibrite emits the light it stores, the luminance level of the light decreases gradually over time. The duration of the emitted light may also differ slightly depending on such factors as the brightness of the place where the watch is exposed to light and the distance from the light source to the watch.

※ In general, when you enter a dark place from a bright environment, your eye cannot adapt to the change in light levels quickly. At first, you can hardly see anything, but as time passes, your vision gradually improves. (Dark adaptation of the human eye)

Reference data on the luminance

Condition		Illumination
Sunlight	Fine weather	100,000 lux
	Cloudy weather	10,000 lux
Indoor (Window-side during daytime)	Fine weather	more than 3,000 lux
	Cloudy weather	1,000 to 3,000 lux
	Rainy weather	less than 1,000 lux
Lighting apparatus (40-watt daylight fluorescent light)	Distance to the watch: 1 m	1,000 lux
	Distance to the watch: 3 m	500 lux (average room luminance)
	Distance to the watch: 4 m	250 lux

Troubleshooting

Troubles	Possible Causes	Solutions
The watch stops operating.	The mainspring has not been wound.	Wind the mainspring or swing the watch for a few times so that the watch will start operating. If this action does not correct the condition, consult the retailer from whom the watch was purchased.
The watch temporarily gains/loses time.	The watch has been left in extremely high or low temperatures for a long time.	Normal accuracy will resume when the watch returns to normal temperature.
	The watch was brought into close contact with a magnetic object.	Accuracy cannot be recovered. Consult the retailer from whom the watch was purchased.
	The watch was dropped, worn while playing active sports, hit against hard surfaces, or exposed to strong vibrations.	Accuracy cannot be recovered. Consult the retailer from whom the watch was purchased.
	Inspection, adjustment, and overhaul cleaning have not been performed for the watch for more than 3 years.	Consult the retailer from whom the watch was purchased.
The date changes during daytime.	A.m./p.m. is not correctly set.	Advance the hour hand for 12 hours and reset the time and date.
Blur in the display persists.	Small amount of water has got inside the watch due to deterioration of the gasket, etc.	Consult the retailer from whom the watch was purchased.

※ For the solution of troubles other than above, contact the retailer from whom the watch was purchased.

English

■SPECIFICATIONS (Movement)

Caliber no.	9S86, 9S85
Common features	Hour Hand, Minute Hand, Second Hand, Date.
Extra features for Cal. 9S86 only	24-hour hand, Time difference adjustment function interrelated with the day display
Vibrations	36,000/hour (10/second)
Loss/gain (Grand Seiko Standard)	Mean daily rate※: -3 to +5 seconds
Loss/gain (Grand Seiko Special Standard)	Mean daily rate※: -2 to +4 seconds
Driving system	Automatic winding type with manual winding function
Power reserve	For 55 hours or more. ※From the state of the mainspring being sufficiently wound
Jewels	37 jewels

Caliber no.	9S66, 9S68, 9S65, 9S61, 9S64
Common features	Hour Hand, Minute Hand, Second Hand.
Extra features for Cal. 9S66, 68, 65	Date
Extra features for Cal. 9S66 only	24-hour Hand
Vibrations	28,800/hour (8/second)
Loss/gain	Mean daily rate※: -3 to +5 seconds
Driving system	9S66, 9S68, 9S65, 9S61: Automatic winding type with manual winding function 9S64: Manual winding type
Power reserve	For 72 hours or more. ※From the state of the mainspring being sufficiently wound
Jewels	9S66, 9S68, 9S65: 35 jewels, 9S61: 33 jewels, 9S64: 24 jewels

Caliber no.	9S25
Features	Hour Hand, Minute Hand, Second Hand, Date.
Vibrations	28,800/hour (8/second)
Loss/gain	Mean daily rate※: -3 to +8 seconds
Driving system	Automatic winding type with manual winding function
Power reserve	For 50 hours or more. ※From the state of the mainspring being sufficiently wound
Jewels	33 jewels

Mean daily rate※: is a mean value of daily rates in a condition where the movement before assembly in a case are measured in 6 positions in a fixed manner under artificially controlled environment for 12 days.
Caution: Depending on conditions of use (such as normal usage time, temperature environment, and winding state), accuracy may exceed the abovementioned range. Therefore, for normal usage accuracy when it is actually used, -1 to +10 seconds (-1 to +8 seconds for Cal. 9S86 and 9S85, –5 to +10 seconds for Cal. 9S25) per day are specified as target values
※ The specifications are subject to change without prior notice due to product improvement.

グランドセイコー専用ダイヤル（通話料無料）
0120-302-617
受付時間：月曜日～金曜日　9：30 ～ 21：00
土曜・日曜・祝日　9：30 ～ 17：30

お客様相談室
〒100-0005　東京都千代田区丸の内 3-1-1　国際ビル
〒550-0013　大阪市西区新町 1-4-24　大阪四ツ橋新町ビルディング
営業時間：9：30～17：30（土曜・日曜・祝日、年末年始を除く）

セイコーウオッチ株式会社